

別冊

NISE 授業づくりサポートシートでバッチリ！

事例編



NISE授業づくりサポートシート と使い方

知的障害特別支援学級での授業づくりに当たり、下枠にある項目に従って『NISE授業づくりサポートシート』に記入していくことで、知的障害のある児童に対する教育についての基本的な考え方を理解し、授業の準備をすることができます。これらの項目は、実践編・理論編のページで説明した「授業づくりのポイント」と対応しています。ここで紹介している事例ではかなり記入量が多くなっておりませんが、これは日々の授業で毎回記入することを想定しているものではありません。1年に1回から数回程度、研究授業の前後など、じっくりと授業づくりに向き合う際に参考としてみてください。

また、実践&理論編において、評価規準（到達目標）に加えて、評価基準として3つのレベルの内容を考えることを提案しています。これに対応して、各事例では3つのレベルからなる評価基準を書き込んでいます。こちらも、毎回の授業での評価を記録していくことを必須のもととして考えているわけではありません。まずは、子どもの発達をスモールステップで考え、小さな進歩や伸びを見取るという考え方を、初めて知的障害のある児童の指導を担当する先生方にも知ってほしいという意図から、このような記入欄を設けています。無理のない範囲で、実際に試していきましょう。

次ページからは、『NISE授業づくりサポートシート』の様式とこのシートに基づき国語科と算数科の実践で授業づくりを行った記入例と、（記入に当たっての留意点・よかった点・有効と思われる点など）を紹介します。

シート I

- 1 指導体制
- 2 前時までの児童の実態や単元設定の理由など
- 3 単元名
- 4 単元目標
- 5 単元の評価規準
- 6 児童の実態と本単元の評価基準
- 7 教材についてのメモ
- 8 単元計画
- 9 本単元と他教科等との関連
- 10 本時

シート II

- 1 本時の学習評価
- 2 本時の評価
- 3 単元の評価

NISE授業づくりサポートシート様式

I 指導案づくり

1 指導体制

授業者 職・氏名

(T1)

(S1)

(S2)



複数の教師や支援員とチーム・ティーチングで指導する場合は、(T1)(T2)(S1)などと記載します。実際の指導場面では、メインティーチャーとサブティーチャーの役割を明確にしておくことが重要です。

2 前時までの児童の実態や単元設定の理由など

- (1) 前時までの児童の実態

- (2) 単元設定の理由と本単元において身につけさせたい力

- (3) 年間指導計画における本単元の位置づけ

- (4) 学習指導要領との対応

- (5) 指導全般における基本方針



① 前時までの児童の実態は、単元の中心的な活動について、児童(たち)の実態を簡単に記します。授業場面だけでなく、日常場面での様子についても記します。



⑤ 指導全般における基本方針には、大まかな指導方針や学級・授業経営の方針を書きます(例：障害の重いAさんには介助員がつく、児童の実態差が大きくだいたい3つのグループに分けられるので3パターンの単元目標や支援方法を考える、など)。

3 単元名

4 単元目標

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6 児童の実態と本単元の評価基準

児童	児童の実態	本単元の評価基準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A				
B				
C				

7 教材についてのメモ

8 単元計画

	学習内容・学習活動	重点目標の評価規準	評価方法
1			
2			
3			

9 本単元と他教科等との関連

10 本時 (第○次)

(1) 本時の目標

(2) 単元に関する個々の児童の実態と本時目標

	本時の目標／評価基準	指導の手立て
A		
B		
C		

(3) 本時 (月 日 校時) の展開

時間	学習活動	○支援と留意点	□評価方法【評価規準】

(4) 場面設定・教材など

Ⅱ 指導後の振り返りシート

1 本時の学習評価

	本時の目標／評価基準	学習評価	児童の様子 (すべて書かず、空欄でもよい)	次時の目標についてのメモ (変更の有無など)
A				
B				
C				



「児童の様子」には学習評価の結果の根拠となるような、実際に児童ができたこと、教師が行った具体的な手立てなどを書きます。また、評価基準に基づく評価とは別に、個人内評価を通じて見取ることができたことがあれば、ここに記入します。

2 本時の評価



箇条書きで、簡単に今日の授業についての振り返りと、次時へどのように展開していくか、変更点はないかなどメモします。

3 単元の評価

(1) 児童に関する評価

(2) 授業の評価



単元が終了した際に、単元を総括して書きます。反省点だけでなく、よかった点も書き、それらを次の授業にどう生かせるかを考えます。

事例1 国語科「書くこと」

てがみを かいて しらせよう ～相手に思いが伝わる文章を書こう～

本事例学級での教育課程の位置づけ

特別の教育課程編成（知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科）

1 指導体制

授業者 ○○市立○○○小学校 教諭 ○○○○（T1）

2 前時までの児童の実態や単元設定の理由など

（1）前時までの児童の実態

【一般的な児童の実態】

- ・本学級は、1年生、3年生、4年生、5年生、6年生の児童5名が在籍している。実態差が大きく、学校教育法施行令第22条の3に該当する障害の状態である児童もいる。
- ・「書くこと」の学習については、それぞれの実態に応じて日々取り組んでいる。翌日の時間割を視写することが全員の日課になっている。高学年の児童は、毎日の振り返りを日記に2・3文～長文で書いている。
- ・ひらがなやカタカナ、漢字の学習で、文字を書くことが難しい児童は、点結びや迷路などの学習を行うなど、実態に応じて書字の学習を行っている。
- ・絵日記や作文、観察カード、想像文などで経験したことや考えたことを書く学習も行っている。書くことへの抵抗感や苦手意識の強い児童は少ない。



単元の中心的活动である「書くこと」に対する学級全体の実態把握をしています。また、「書くこと」に対して、日常的に繰り返している活動から把握し、単元の設定・計画に生かしています。

（2）単元設定の理由

- ・本校で最も大きな行事の1つである「歌のつどい」には、家族や地域の多くの方々が集まる。児童は歌のつどいに向け日々練習を重ね、友だちと協力して音楽をつくりあげていく過程を楽しんでいる。そこで、歌のつどいについての手紙を題材にすることで自分の思いや気持ちを言語化・文章化し、意欲的に書く活動に取り組めるようにしたいと考え、本単元を設定した。



特別活動（行事）と単元を関連づけて設定することで、児童の意欲的・主体的な活動を引き出すことにもつなげていきます。

（3）年間指導計画における位置づけ

- ・「書くこと」については、年間指導計画に、相手の立場を意識して運動会の招待状を書く、遠足や宿泊学習のあとに楽しかった出来事を作文に書く、1年間のまとめとして思い出に残ったことを作文に書くなどの学習を位置づけている。その1つとして、本単元を設定した。



児童にとって関連づけやすい行事や学習活動の節目に、「書くこと」を位置づけています。

（4）学習指導要領との対応

- ・本単元の目標・内容は、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の知的障害のある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の目標・内容のうち、小学部国語科の以下に関するものと対応させている。

目標

〔2段階目標〕

- ア 日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。
- イ 言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。
- ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。

〔3段階目標〕

- ア 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。
- イ 出来事の順序を思い出す力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思い付いたり考えたりすることができるようにする。
- ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。

内容

[知識及び技能]

- 3段階 ウ（イ） 出来事や経験したことを伝え合う体験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。

[思考力、判断力、表現力等]

- 2段階 B 書くこと ア 経験したことのうち身近なことについて、写真などを手掛かりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。
- 3段階 B 書くこと ア 身近で見聞きしたり、経験したりしたことについて書きたいことを見付け、その題材に必要な事柄を集めること。
- 3段階 B 書くこと ウ 見聞きしたり、経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書くこと。
- 3段階 B 書くこと エ 書いた語句や文を読み、間違いを正すこと。



Point 特別の教育課程を編成しているので、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の知的障害のある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科から、小学部国語科の目標・内容に対応させています。

「特別の教育課程」については、「理論編」の48ページを参照してください。

(5) 指導全般における基本方針

- ・単元の導入は、児童の学習に対する動機づけが高まるよう、児童生徒の興味・関心や身近な生活と結びつけて行うようにする。
- ・中高学年の児童が、すでに学んだことをもとに、単元の活動をリードできる場面をつくることを考慮する。
- ・通常の学級における教科で用いられている題材をアレンジして活用できるかどうか考慮する。
- ・児童の実態差が大きいため、単元目標は2つ以上設定することも考慮する。
- ・導入は学級全体で行い、同じ目的をもって学習に取り組めるようにする。手紙を書く活動は、交流及び共同学習の時間や実態を考慮して、個別に進めていく。



Point 例えば小学校の教科書に、1年生は手紙で知らせよう、3年生はありがとうを伝えよう、4年生は手紙で伝えようとなり、このような系統性も参考にします。

3 単元名

てがみを かいて 知らせよう ～相手に思いが伝わる文章を書こう～



Point 児童にも理解しやすい表現にします。「何をするのか」「何のためにするのか」「どのようにするのか」が明確になっています。

4 単元目標

- 歌のつどいに向けて自分が活動してきたことを伝え合い、いろいろな語句や文で表現する。(知識及び技能 3段階 ウ(イ))
- 歌のつどいに向けた活動の中から自分のしてきたことを、具体的な言葉で表現し、手紙を書く。(思考力、判断力、表現力等 2段階 B 書くこと ア)
- いろいろな語句や文の表現として、丁寧な言葉と話し言葉との違いを知り、丁寧な言葉で文章を書く。(知識及び技能 3段階 ウ(イ))
- 歌のつどいに向けた活動の中から相手に伝えたいことを明確にし、必要な事柄を集めて手紙を書く。(思考力、判断力、表現力等 2段階 B 書くこと ア)
- 書いた文章を読み返して、教師の指導を受けながら、正しいものに書き直す。(思考力、判断力、表現力等 3段階 B 書くこと エ)
- 手紙をもらったり返事を書いたりする楽しさを感じながら、思いを伝えようとする。(学びに向かう力、人間性等)



Point 学習指導要領の目標・内容に基づいて、育成を目指す資質・能力の3つの柱で設定します。また、児童の実態が多様であることにより、複数の段階の目標・内容から実態に応じた表現にしています。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ●自分の経験したことを伝え合い、いろいろな語句や文で表現している。(知識及び技能3段階ウ(イ)) ●丁寧な言葉と話し言葉との違いに気をつけて、丁寧な言葉で文章を書いている。(知識及び技能3段階ウ(イ)) 	<ul style="list-style-type: none"> ●歌のつどいを知らせる手紙について、書く相手や書く事柄を決めている。 ●書いた文を読み返して間違いを正したり、必要な情報が書かれているかなどを確かめたりしている。 ●宛名の書き方がわかり、正しく書いて手紙を完成させている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●歌のつどいを見に来てほしいという思いをもって、手紙を書こうとしている。



Point 観点別学習状況の評価の3観点で設定するとともに、「4 単元目標」に基づいて設定します。なお、観点別学習状況の評価の3観点については、「理論編」の54ページを参照してください。



6 児童の実態と本単元の評価基準

児童	個別の指導計画		本単元の評価基準		
	長期目標	短期目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	周りの人の行動を見て、自分で何をするかを考え、自信をもって動けるようにする。	●拗音・促音などを含めたひらがなを正しく読み、文字ブロックを使って3音程度の言葉を構成するとともに、音を聞いて文字に表す。	①：自分のしてきたことを文章で伝える。 ②：自分のしてきたことを単語で伝える。 ③：自分のしてきたことを提示された選択肢の中から選ぶ。	①：自分のしてきたことを自分で文章に書く。 ②：教師の手本を見ながら、文章を視写する。 ③：教師と一緒に確かめながら文章を書く。	教師と歌のつどいについて話しながら、質問に答えたり、自分の言いたいことを言ったりする。
	児童の実態				
		書けるひらがなは増えたが、50音の読み書きは完全には習得できていない。書くことは好きで、迷路や点結びが的確にできるようになった。友だちと同じことをやりたいという気持ちが強い。			
B	声かけを受け、自分がやるべきことをやる。	●2年生までの漢字を確実に覚え、日常生活の中で進んで使う。	①：丁寧な言葉と話し言葉との違いを考えながら、丁寧な言葉で文章を書く。 ②：教師の確認を得ながら、丁寧な言葉で文章を書く。 ③：教師と一緒に文章を考えながら、丁寧な言葉で書く。	①：書いた文章を読み返して間違いに気づき、直す。 ②：教師の助言を受けて間違いに気づき、直す。 ③：教師と一緒に文章を読み返し、間違いを確認しながら直す。	相手を意識して相手に伝わるような手紙を書こうとする。
	児童の実態				
		読むことはできるが、書くことに困難が見られる。自分の名前を書くだけでも、集中力と時間を要する。言葉はよく知っており、会話のやりとりはスムーズにできる。			

C	<p>人と話すときは、相手のほうを見る、話しかけられたら返事をする、質問には答えるなど、人との基本的なやりとりのしかたを身につける。</p>	<p>● 出来事を詳しく思い出し、そのときの気持ちを交えながら、順序よく作文にする。</p> <p>● 3年生までの漢字の読み書きを定着させ、4年生の新出漢字をできるだけ書くようにする。</p>	<p>①：丁寧な言葉と話し言葉との違いを考えながら、丁寧な言葉で文章を書く。</p> <p>②：教師の確認を得ながら、丁寧な言葉で文章を書く。</p> <p>③：教師と一緒に文章を考えながら、丁寧な言葉で書く。</p>	<p>①：書いた文章を読み返して間違いに気づき、直す。</p> <p>②：教師の助言を受けて間違いを確認し、助言どおりに直す。</p> <p>③：教師と一緒に文章を読み返し、間違いを確認しながら直す。</p>	<p>相手を意識して相手に伝わるような手紙を書こうとする。</p>
児童の実態		<p>文章を書くことが好きで、感想文や作文など、一人で言葉をつなげて文章化できるが、誤字が多い。漢字の学習も好きだが筆圧が強く、思うように運筆が進まない。昨年度、3年「ありがとうを伝えよう」の学習で、妹に手紙を出し、ポストに投函すると手紙が届くということを経験している。</p>			
D	<p>周囲からの問いかけに対し、自分の意思を伝える表現力を身につける。</p>	<p>● 経験したことを順序よく、気持ちを交えて文章に表す。</p>	<p>①：丁寧な言葉と話し言葉との違いを考えながら、丁寧な言葉で文章を書く。</p> <p>②：教師の確認を得ながら、丁寧な言葉で文章を書く。</p> <p>③：教師と一緒に文章を考えながら、丁寧な言葉で書く。</p>	<p>①：書いた文章を自分で読み返し、助詞や単語の間違いを正したり、相手に失礼な表現になっていないか確認したりする。</p> <p>②：教師の助言を受けて間違いに気づき、自分で適切な表現に直す。</p> <p>③：教師の助言を受けて間違いを確認し、助言どおりに直す。</p>	<p>必要に応じて、もらった手紙を読み返ししながら、その返事を進んで書くとする。</p>
児童の実態		<p>気持ちを表現することが苦手で、会話で言葉に詰まることが多い。毎日振り返りを書くことで、出来事や気持ちを文章に表すことができるようになってきた。</p>			

E	友だちに自分の気持ちを伝える力を身につける。	● 出来事を順序よく文章に表す。	①：丁寧な言葉と話し言葉との違いを考えながら、丁寧な言葉で文章を書く。	①：書いた文章を読み返して間違いに気づき、直す。 ②：教師の助言を受けて間違いに気づき、直す。	書いた手紙をポストに投函するというイメージをもちながら、やりとりを楽しむ。
児童の実態		1年の漢字の読み書きに困難が見られ、文章の内容理解も難しい。カタカナの想起も難しい場合がある。出来事を順序よく話すことはできるが、それを文章で書くことは難しい。昨年度、3年「ありがとうを伝えよう」の学習で、大好きな祖母に手紙を書き、手紙が届いて相手に喜んでもらったという経験をしている。			
		②：教師の確認を得ながら、丁寧な言葉で文章を書く。 ③：教師と一緒に文章を考えながら、丁寧な言葉で書く。	③：教師と一緒に文章を読み返し、間違いを確認しながら直す。		



短期目標の欄には「書くこと」を中心とした実態を記載します。また、本単元の評価基準は、観点別学習状況の評価の3観点で設定します（「理論編」の54ページを参照）。学級全体の「4 単元目標」と「5 単元の評価規準」をもとに、児童個々の実態と短期目標から予想される児童に到達してほしい姿として、3つのレベルを想定して具体的に設定しています。ここでは、到達が難しいレベルから①、②、③と表現しています。

7 教材についてのメモ

- ・てがみで しらせよう（光村図書出版 小学校国語1年下）〈共通教材〉
- ・手紙の書き方（郵便局）〈共通教材〉
- ・「ありがとう」をつたえよう（光村図書出版 小学校国語3年下）
- ・手紙で伝えよう（光村図書出版 小学校国語4年上）
- ・前担任からの手紙
- ・個別のワークシート（別紙参照）



本事例では、小学校の国語教科書を教材として活用していますが、当該学年の内容を実施するというのではなく、個々の児童の実態に応じてアレンジすることが最も大切なポイントです。小学校の国語教科書を活用することは、通常の学級の先生方と授業をベースにした意見交換や情報共有などをするにもつながります。

8 単元計画

	学習内容・学習活動	重点目標の評価規準	評価方法
1時	<ul style="list-style-type: none"> ●「歌のつどいのことを手紙で知らせよう」というめあてをもち、学習計画を立てる。 ・前担任から届いた手紙を読む。 ・歌のつどいについて、お互いの取り組み状況について話す。 ・手紙を書きたいという気持ちをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●歌のつどいを見に来てほしいという思いをもって、手紙を書こうとしている。 	発言 対話 観察
2時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ●手紙を出す相手を決め、書く内容を話し合う。 ・手紙を出す相手を決める。 ・手紙を出した経験を発表し、手紙を書くために必要な事柄について話し合う。 ・手紙に書く内容を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●手紙を書く相手を決め、必要な事柄や伝えたい事柄について考えている。 	発言 対話 観察
3時 ・ 4時	<ul style="list-style-type: none"> ●手紙の書き方を知って、歌のつどいについて知らせる手紙を書く。 ・必要な項目についてワークシートに記入する。 ・伝えたいことを明確にし、教師と一緒に、または一人で文章に書く。 ・相手を意識して、文末表現に気をつけて手紙を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●手紙を送る相手に、自分の思いが明確に伝わるよう簡単な構成を考えている。 ●丁寧な言葉と話し言葉との違いに気をつけて、文章を書いている。 	発言 ワークシート 手紙
5時	<ul style="list-style-type: none"> ●手紙を清書する。 ・ワークシートや下書きをもとに、丁寧に清書する。 ・書いた文章を読み返して、間違いなどを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●書いた文を読み返し、間違いを正したり、必要な情報が書かれているかなどを確かめたりしている。 	手紙
6時	<ul style="list-style-type: none"> ●宛名の書き方を知り、封筒に宛名を書いて仕上げる。 ・見本を見ながら、宛名を書く。 ・自分の名前を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●宛名の書き方がわかり、正しく書いて手紙を完成させている。 	封筒



単元全体の流れを「導入→展開→振り返り」と「習得・活用・探求」を意識して作成します。各時において何を学ぶかを明確にし、どのように学ぶかという「主体的・対話的で深い学び」の視点も踏まえた計画を考えます。

また、計画どおりに進めることを意識し過ぎず、児童の学習の様子に応じて、柔軟に時数を変更することも大切な視点です。



本単元の学習に対する児童の動機づけを引き出すために「前担任から届いた手紙を読む」活動を取り入れています。

9 本単元と他教科等との関連

- ・本単元で書いた手紙は、実際に郵便局に行き、切手を買ってポストに投函する。国語科の学習から生活科の学習へ関連づけ、郵便のしくみについて、体験をとおして学ぶ機会とする。

Point 特別活動（行事）と国語科、生活科の学習が関連づけられています。具体的で実際的な体験活動に結びつけることで、学んだことが次の場面へとつながっていきます。

10 本時

(1) 本時の目標

手紙を書く相手を決め、手紙を書くために必要な事柄や歌のつどいについて伝えたい事柄を考える。（思考・判断・表現）

Point 観点別学習状況の評価は、毎回の授業ですべての観点を評価するのではなく、単元や題材などのまとまりの中で、指導内容に照らして評価の場面を適切に位置づけるとされています。ここで取り上げた第2時では、思考・判断・表現に絞って目標と評価基準が立てられています。

(2) 単元に関する個々の児童の実態と本時の目標

Point 「5 単元の評価規準」、「6 児童の実態と本単元の評価基準」に基づいて設定していきます。



	本時の目標	指導の手立て
A	①：誰に・何を伝えたいのか、友だちの考えを受けて決める。 ②：誰に・何を伝えたいのか教師と一緒に考える。 ③：誰に手紙を書くのか、教師と一緒に考える。	手紙を書きたいという思いは強いので、話をよく聞いて、思いを整理していく。
B	①：教師の声かけを受けずに、手紙に書く事柄を進んで考える。 ②：手紙を書く相手を決め、声かけを受けながら、書く事柄を考える。 ③：声かけを複数回受けながら、学習に参加する。	集中が切れやすいので、「誰に」「何を」「どんな」というキーワードを提示し、簡潔に考えられるようにする。
C	①：手紙を書く相手を決め、歌のつどいについて伝えたいことを、相手に伝わる言葉で表現する。 ②：手紙を書く相手を決め、教師の問いかけに答えながら伝えたいことを整理する。 ③：教師と一緒に、手紙を書く相手、事柄を決める。	書くことが好きで、伝えたい思いも強いと思われるので、伝えたい事柄がたくさん出てきたときには、整理できるような問いかけをする。
D	①：手紙に書く事柄を、進んで複数考える。 ②：担任に返事を書くという目的をもち、必要な事柄や伝えたい事柄を考える。 ③教師と一緒に、手紙に書く事柄を考える。	手紙の返事を書くことを確認し、返事を書くために必要な事柄は何か問いかける。
E	①：紙に書く事柄を、進んで複数考える。 ②：担任に返事を書くという目的をもち、必要な事柄や伝えたい事柄を考える。 ③教師と一緒に、手紙に書く事柄を考える。	手紙という形式を意識できるように、昨年度の学習の経験を思い出せるような問いかけをし、返事を書きたいという思いをもてるようにする。



「10（1）本時の目標」に基づいて、児童に到達してほしい姿として、個々の児童の目標について、3つのレベルを想定して具体的に設定しています。ここでも、到達が難しいレベルから①、②、③と表現しています。

「児童の実態」を的確に捉えることで、「本時目標」を達成するための「指導の手立て」も明確に表現できています。



(3) 本時(〇〇月〇〇日5校時)の展開

※時間の数字は「分間」(あくまでも目安の時間)

時間	学習活動	支援と留意点	評価方法【評価規準】
10 導入	<ul style="list-style-type: none"> ・日直があいさつをする。 ・前時の学習を振り返り、手紙の続きがあることを知る。 ・手紙をもらったときの気持ちや出した経験について、みんなで話し合う。 ・今日のめあてを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●前時に読んだ前担任から届いた手紙の続きを披露する。 ●CさんとEさんには、昨年度行った手紙を出す学習について問いかける。 	
もらった人がうれしくなるような手紙のかきかたをべんきょうしよう			
10 展開 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に手紙を書くか決める。 ・歌のつどいについての手紙を書くことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●前担任に手紙の返事を出すという学習にしたいが、家族などの名前が出てもよしとする。 ●歌のつどいのことを知らせたいという思いが出るような投げかけをする。 	<input type="checkbox"/> 発言 <input type="checkbox"/> 対話 <input type="checkbox"/> 観察 【思考力、判断力、表現力等】
20 展開 ②	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙を書くときに必要な事柄を考える。 ・歌のつどいについて、手紙に書きたい事柄を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年生の教科書の手紙文を提示し、手紙の書き方(初めのあいさつ・本文・結びのあいさつ)を確認する。 ●CさんとEさんが、手紙を出すときには宛名を書くことや切手を貼ることなど自発的に説明することが予想される。実際に手紙を出す活動につなげるためにも、宛名を書くことや切手を貼ることが視覚的に残るように板書をする。 ●歌のつどいについて頑張っていることやできるようになったことなど、具体的な様子を子どもたちから聞き出す。 	<input type="checkbox"/> 発言 <input type="checkbox"/> 対話 <input type="checkbox"/> 観察 【思考力、判断力、表現力等】
5	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の学習内容を確認する。 ・日直があいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全員が姿勢を正すまで待つ。 	



【導入】では、前時を振り返ることで、本時の展開につなげていきます。また、めあてを発表する前に、発問から今日のめあてにつなげています。既習事項の問いかけへの反応から、学習の定着を見取ることができます。また、他者がわかるように伝えようと考えることにもつながります。めあてが児童にも理解しやすく表現され、本時で何を学習するのが明確になっています。

Point 【展開①】では、発問に対する児童の反応も予測し、児童の思いを大切に、柔軟な対応を考えています。

具体的に発問することで、児童が何を答えればよいのかが明確に伝わります。

Point 【展開②】では、決める事柄について児童個々が考え、友だちや先生との対話や既習している児童への発問などを取り入れて展開することで、児童の手紙を書きたいという意欲が高まっていきます。

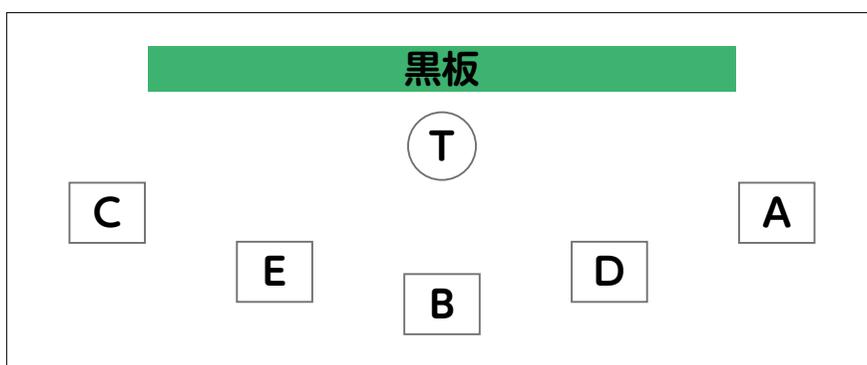
手紙を書き始める前に、基本的な知識を確認しておきます。児童全員にわかりやすく説明するために、小学校1学年の国語教科書を活用するとともに、ワークシートも工夫しています。

また、本時の学びと次時がつながるような活動を取り入れています。次時で予定している実際に手紙を書き始める活動を見据え、知的障害の特性に配慮したうえで、発言を視覚的に残すために板書計画を工夫しています。

(4) 場面設定・教材など

Aさんについては、個別支援が必要になる機会が多いと想定されることと、右利きであるためにAさんの右側に教師がいると支援しやすいと考え、いちばん右側の席にする。また、Aさんは急に声を出す場合があるため、他児から受ける影響が少ないと考えられるDさんをその隣の席とする。また、Bさんは注意の持続が難しい実態があるため、黒板に注目しやすい中央の席とする。Eさんは、Bさんの注意が逸れた際などに、Bさんに適切な声かけをする場面が見られるため、Bさんの左側の席とする。

・書く分量や行数の異なる3つのワークシートを用意し、児童の実態により使い分ける。



Point 個々の児童の実態に配慮して、席が配置されています。上記は一例で、席の配置は、教科や学習内容を踏まえて変更しています。

また、「書くこと」の実態に応じて工夫したワークシートを作成しています。

授業の様子

単元名

てがみを かいて しらせよう

～相手に思いが伝わる文章を書こう～

①導入



めあてと学習の進め方を確認します。

②展開

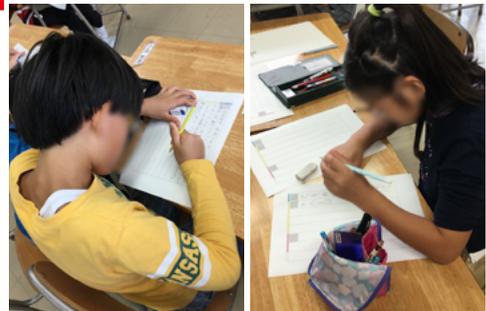


手紙文の基本的な構成を学習します。

③振り返り



どんなことを書いたのか教師と一緒に確認します。



自分が書きやすい太さの罫線があるワークシートを使って手紙を書いていきます。

②ワークシート〈太罫線〉

③ワークシート〈細罫線〉

指導後の振り返りシート

1 本時の学習評価

	本時の目標／評価基準	学習評価	児童の様子 (すべて書かず、空欄でもよい)	次時の目標についてのメモ (変更の有無など)
A	<p>①誰に・何を伝えたいのか、友だちの考えを受けて決める。</p> <p>②誰に・何を伝えたいのか教師と一緒に考える。</p> <p>③誰に手紙を書くのか、教師と一緒に考える。</p>	②	担任や他児と歌のつどいについて話すことで、前担任に手紙を書きたいという言葉を引き出すことができた。また、担任が具体的に質問することで、手紙に書く内容をいくつか考えて言うことができた。	Aさんはこれまで一語文を書くことが中心であったので、2、3語文を書くことをねらいとしてよいかと、そのための手立てを検討する。
B	<p>①教師の声かけを受けずに、手紙に書く事柄を進んで考える。</p> <p>②手紙を書く相手を決め、声かけを受けながら、書く事柄を考える。</p> <p>③声かけを複数回、受けながら、学習に参加する。</p>	②	担任や他児と歌のつどいについて話すことで、前担任に歌のつどいについての手紙を書きたいという言葉を引き出すことができた。また、担任が具体的に質問することで、手紙に書く内容をいくつか考えて言うことができた。	Bさんは注意や微細運動の特徴から、書くことに時間がかかる。これらの特性に配慮して書く課題を設定することを検討していく。
C	<p>①手紙を書く相手を決め、歌のつどいについて伝えたいことを、相手に伝える言葉で表現する。</p> <p>②手紙を書く相手を決め、教師の問いかけに答えながら伝えたいことを整理する。</p> <p>③教師と一緒に、手紙を書く相手、事柄を決める。</p>	①	Cさんが昨年度に行った手紙を出す学習について、担任が段階的に問いかけることで、手紙やその出し方について思い出して説明することができた。また、手紙を書く相手を前担任、歌のつどいに来てもらえるような内容にしたいと決めることができた。	Cさんは順序立てて文章を書くのが苦手で、書く内容も少なくなってしまう。そのためワークシートを工夫するなど検討していく。
D	<p>①手紙に書く事柄を、進んで複数考える。</p> <p>②前担任に返事を書くという目的をもち、必要な事柄や伝えたい事柄を考える。</p> <p>③教師と一緒に、手紙に書く事柄を考える。</p>	①	担任や他児と歌のつどいについて話すことで、前担任に歌のつどいについての手紙を書きたいという言葉をも自分から言うことができた。 伝えたい事柄がたくさんあって絞ることが難しく、あれもこれもと考えているうちに混乱する様子がうかがえた。	Dさんはまとまった文章を書くのが苦手で、書く内容が多くなってしまう。そのためワークシートを工夫するなど検討していく。

E	<p>①手紙に書く事柄を、進んで複数考える。</p> <p>②前担任に返事を書くという目的をもち、必要な事柄や伝えたい事柄を考える。</p> <p>③教師と一緒に、手紙に書く事柄を考える。</p>	<p>② Eさんが昨年度に行った手紙を出す学習について、担任が段階的に問いかけることで、手紙やその出し方について思い出して説明することができた。</p> <p>また、担任が具体的に質問することで、手紙に書く内容をいくつか考えて言うことができた。</p>	<p>Eさんは苦手意識があるためか、書くこと自体を拒否することが多くある。そのためまずは本人が書いたことを積極的にほめたり、認めたりしていく。</p>
---	--	--	---

2 本時の評価

- ・計画時は、2時間目までに手紙を出す相手と内容を決めるよう計画していたが、本時で前担任に歌のつどいについて書くことを決め、手紙を書くために必要な項目について考えることができた。計画よりも早く内容を進めることができ、各児童も評価基準のレベル②（到達目標）を満たす学習の姿を示すことができた。特に、CさんとDさんはレベル①を満たす学習の姿を示すことができた。

3 単元の評価

(1) 児童に関する評価

- ・Aさんは、手紙に書きたいことを担任が聞き取って書き出すことで、それを手紙に視写することができた。これまで単語を書くのが中心だったが、2、3語文をいくつか書くことができた。
- ・Bさんは通常、書くことに時間がかかるが、この単元では、返事を書きたいという強い思いをもち、これまでと比べて、とても早く書くことができた。
- ・Cさんは通常、順序立てて文章を書くことが苦手で、書く内容も非常に多くなってしまふ。しかしこの単元では、ほかの児童に比べて書いた量は多いが、伝えたい内容の順序を考えて手紙を書くことができた。
- ・Dさんは通常、書く内容が多くなりやすいが、この単元ではこれまでよりも、まとまった手紙を書くことができたと思う。また、Dさんに書いた内容を見直すことを促すと、書き間違いに自分で気づくことができた。
- ・Eさんは通常、書くことを拒否することが多いが、本単元では積極的に書いていた。また、本単元では、漢字を使うよう促すことはしなかったが、Eさん本人が漢字を積極的に使った。

(2) 授業の評価

- ・児童の本単元の手紙を書くことを、前担任へ手紙を書くことと結びつけたことで、児童の学習への動機づけを高め、学びを促せたと思う。
- ・また、児童の書きに関する実態に応じて、一人ひとりのワークシートを工夫したことで、書くことが促せたと思う。

本事例のまとめ（ポイントと意義など）

● 授業づくりの工夫

- ・前担任からの手紙を児童の手紙を書くことに対する学習意欲を高めるために活用。
⇒前担任からの手紙の返事を書くこと、その中に歌のつどいについての内容を盛り込むことを、児童から引き出した。

● 子どもの学び

- ・上記の課題設定で児童の学習意欲を高めた。
- ・個々の書くことに関する特性に応じて、ワークシートを個別に工夫し活用。
⇒児童は手紙を書くこと、その内容を考えて書くことを学ぶことができたと考えられる。それにより、児童によっては当初の目標（レベル②）以上の学びの姿（レベル①）を見せることができた。

● 般化やほかの単元へのつながり

- ・本単元で使用したワークシートをほかの書く課題にも応用。
- ・単元の最後に手紙を書いてポストに投函した。このような生活を意識した活動により、書くことが児童の日常生活に根づくことを期待できる。



事例2 国語科「読むこと」

きつつき

I 指導案づくり

1 指導体制

授業者 氏名

〇〇〇〇 (T1)、〇〇〇〇 (S1)、〇〇〇〇 (S2)



複数の教師や支援員とチーム・ティーチングで指導する場合は、(T1) (T2) (S1) などと記載します。実際の指導場面では、メインティーチャーとサブティーチャーの役割を明確にしておくことが重要です。

2 前時までの児童の実態や単元設定の理由など

(1) 前時までの児童の実態

- ・本学級は、知的特別支援学級であり2年生から6年生までの7名が在籍しており、施行令22条の3に該当する児童も在籍するなど、実態はさまざまである。
- ・実際に体験しながら行う学習には興味・関心が高まりやすく、集中して学習に取り組む姿勢が見られる。
- ・本を読むことが好きな児童が多いが、目的意識をもって文章を読み内容を読み取る児童が少ない。



学級全体の興味・関心が高まりやすい活動（体験的活動）を把握したうえで、本単元の中心となる「読むこと」に関する学級全体の実態把握をしています。

(2) 単元設定の理由

- ・説明書のように、目的意識をもって文章を読み内容を読み取ることは生活の中で多くの機会が生じ、実生活でも必要とされる能力であると考えられる。
- ・実際に生活に生かして定着させることができるように、順番を表す言葉を学習し、それを使った文章や説明書を読んで実際におもちゃなどを作ることができるかを確認する。



実生活でも必要な能力を育成することで、本単元での学びが生活に生きていくことを見通して設定しています。

- ・本題材「きつつき」は説明文を体験的に学ぶために適切であり、通常学級の実践を参考にしながら授業を行うことができる。



本授業者は、単元を計画作成するに当たっては、目標（身につけさせたい技能、技術）を初めに考えることが多く、その後、それを学ぶために必要な題材とツールを考えていくことが多いそうです。大切にしているのは学ぶためにはどんな工夫が必要か、児童の実態によって異なるのでその点について考えることです。場合によっては、学ぶ必然性や必要性を意図的に設定することもあります（今回の単元では、おもちゃを作るために読み取り方を学ぶなど）。児童が楽しく、合理的に学ぶことを考えています。

（3）年間指導計画における位置づけ

- ・国語 説明文 題材名「きつつき」 作文（校外学習、文化祭など）
- ・本単元で学んだことを理科〔観察文（タブレットの使用含む）〕にも生かす。

（4）学習指導要領との対応

- ・本単元の目標内容は、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の知的障害のある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の目標・内容のうち、小学部国語科の以下に関する内容と対応させている。

目標

〔3段階 目標〕

- ア 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。
- イ 出来事の順序を思い出す力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思い付いたり考えたりすることができるようにする。
- ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。

内容

〔知識及び技能〕

- ・3段階イ（ア） 物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。

〔思考力、判断力、表現力等〕

- ・3段階B書くこと イ見聞きしたり、経験したりしたことから、伝えたい事柄の順序を考えること。
- ・3段階C読むこと イ絵本や易しい読み物などを読み、時間的な順序など内容の大体を捉えること。



特別の教育課程を編成しているので、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の知的障害のある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科から、小学部国語科の目標・内容に対応させています。なお、「特別の教育課程」については、「理論編」の48ページを参照してください。

(5) 指導全般における基本方針

- ・学習の意欲を高めながら、学級全体で学習を行う。言語活動や作業などの課題は、個々の発達段階に応じて個別に設定していく。



導入において学級全体の方向づけをすることで、集団での学習を意味づけていきます。また、個々の児童の進度や発達段階に即して、「読むこと」に関する実態に応じた支援を考えることはとても大切な視点です。

- ・メインティーチャー（T1）と学習支援員（S1・2）の役割を事前に確認し、T1が全体指導を進めながら、S1・2が個別な支援を必要とする児童の横について学習の補助に当たる。
- ・授業の始まりを意識できるように、号令をかける際に、教室前面に貼ってある「正しい姿勢」のとり方を示す。
- ・授業の目標に迫ることができるよう、学ばせたいこと以外の場面で児童が混乱したり、困ったりする可能性を極力少なくするようにしていく。例えば、離席してしまうときの注意を必要最低限にし、取り組む学習課題に集中できるようにする。

3 単元名

きつつき（ひろがることば 小学校国語2下 教育出版）



単元名は、児童にも理解しやすい表現にします。ここでは、取り扱う題材名を単元名にしています。

4 単元目標

- 「読むこと」において、きつつきを作るために必要な材料や、作り方の手順や気をつける点などを捉えている。
(思考力、判断力、表現力等 3段階B書くことイ/C読むことイ)
- おもちゃ作りをとおして、説明書などの文章の共通点について理解している。
(知識及び技能3段階イ(ア))
- 進んで、きつつきなどのおもちゃの作り方について順番を考えながら内容を捉え、学習課題に沿ってまとめようとしている。
(学びに向かう力、人間性等)



学習指導要領の目標・内容に基づいて、育成を目指す資質・能力の3つの柱で設定します。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ● 順番を表す言葉を文章の中から見つける。 ● 順番を表す言葉や記号を使って、説明する。 (知識及び技能3段階イ(ア)) 	<ul style="list-style-type: none"> ● きつつきを作るために必要なもの、手順を理解している ● きつつきを作る中で気をつける点を答えることができる。 ● 文章を読み、きつつきなどのおもちゃを作ることができる。 (思考力、判断力、表現力等 3段階B書くことイ/C読むことイ) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分できつつきなどのおもちゃの作り方について順番に気をつけて読んだり、まとめたりしようとする。 (学びに向かう力、人間性等)



「4 単元目標」に基づいて、観点別学習状況の評価の3観点で設定します。なお、観点別学習状況の評価の3観点については、「理論編」の54ページを参照してください。

6 児童の実態と本単元の評価基準

児童	児童の実態	本単元の評価基準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	<p>学年の教科書の文章を使用して個別で読む学習を行っている。教科書の内容の簡単な部分は読み取ることができるが、重要な部分のみを抜き出すことは難しい。</p> <p>失敗すること、間違ふことへの拒否感が強く、その後の課題に取り組むことが困難になることがある。</p> <p>自分で決めたことに関しては進んで学習する姿勢が見られる。</p>	<p>①：おもちゃ作りをとおして、順序を表す言葉の役割を理解したうえで、説明書などの文章の共通点について理解している。</p> <p>②：おもちゃ作りをとおして、説明書などの文章の共通点について理解している。</p> <p>③：おもちゃ作りをとおして、順番を表す言葉や記号について理解している。</p>	<p>①：「読むこと」において、きつつきを作るために必要な材料や、作り方の手順や気をつける点などを捉え、ほかのおもちゃ作りに生かすことができる。</p> <p>②：「読むこと」において、きつつきを作るために必要な材料や、作り方の手順や気をつける点などを捉えている。</p> <p>③：「読むこと」において、きつつきを作るために必要な材料や、作り方の手順や気をつける点などを、ヒントや支援をもとに考え、捉えている。</p>	<p>進んで、きつつきやおもちゃの作り方について順番を考えながら内容を捉え、学習課題に沿ってまとめようとしている。</p>

B	<p>第2学年の教科書の文章を使用し、個別で読む学習を行っている。読むことに苦手意識をもっており、学習に気持ちが乗らないことがあるが、体験型や目標がはっきりしている学習には進んで取り組むことができる。自分で決めたことには、最後まで取り組もうとする姿が見られる。</p>	<p>①：おもちゃ作りをとおして、説明書などの文章の共通点について理解している。</p> <p>②：おもちゃ作りをとおして、説明書などの文章の共通点について知っている。</p> <p>③：おもちゃ作りをとおして、順番を表す言葉や記号に触れている。</p>	<p>①：「読むこと」において、きつつきを作るために必要な材料や、作り方の手順や気をつける点などを捉えている。</p> <p>②：「読むこと」において、きつつきを作るために必要な材料や、作り方の手順や気をつける点などをヒントや支援をもとに考え、捉えている。</p> <p>③：きつつきの内容を読んで、作成するのに必要な材料や、作り方の手順や気をつける点などを教師と一緒に確認する。</p>	<p>進んで、きつつきやおもちゃの作り方について順番を考えながら内容を捉え、学習課題に沿ってまとめようとしている。</p>
C	<p>第2学年の教科書の文章を使用し、個別で読む学習を行っている。読むことが好きで、自分の言葉で内容を説明することができている。他方で、文章を自分なりに解釈しポイントがずれてしまうこともある。</p>	<p>①：おもちゃ作りをとおして、説明書などの文章の共通点について理解している。</p> <p>②：おもちゃ作りをとおして、説明書などの文章の共通点について知っている。</p> <p>③：おもちゃ作りをとおして、順番を表す言葉や記号に触れている。</p>	<p>①：「読むこと」において、きつつきを作るために必要な材料や、作り方の手順や気をつける点などを捉えている。</p> <p>②：「読むこと」において、きつつきを作るために必要な材料や、作り方の手順や気をつける点などをヒントや支援をもとに考え、捉えている。</p> <p>③：きつつきの内容を読んで、作成するのに必要な材料や、作り方の手順や気をつける点などを教師と一緒に確認する。</p>	<p>進んで、きつつきやおもちゃの作り方について順番を考えながら内容を捉え、学習課題に沿ってまとめようとしている。</p>
D	<p>第1学年の教科書の文章を使用し、個別で読む学習を行っている。読みは、既知の単語であれば読むことができるが、逐次読みになることが多く、教師がヒントを出しながら一緒に読むことで、内容を読み取ることができる。</p>	<p>①：おもちゃ作りをとおして、説明書などの文章の共通点について知っている。</p> <p>②：おもちゃ作りをとおして、順番を表す言葉や記号について知る。</p> <p>③：おもちゃ作りをとおして、順番を表す言葉や記号に触れている。</p>	<p>①：「読むこと」において、きつつきを作るために必要な材料や、作り方の手順や気をつける点などをヒントや支援をもとに考え、捉えている。</p> <p>②：きつつきの内容を読んで、作成するのに必要な材料や、作り方の手順や気をつける点などを教師と一緒に確認する。</p> <p>③：きつつきの内容を読んで、教師と一緒に作成をとおして確認する。</p>	<p>進んで、きつつきやおもちゃの作り方について順番を考えながら内容を捉え、学習課題に沿ってまとめようとしている。</p>

E	<p>第2学年の教科書の文章を使用して個別で読む学習を行っている。日常使われる言葉の文章は読めるが、昔話など日常使用する言葉と異なる文章になると語彙の少なさから読み取りが難しくなる。先へ進みたい気持ちが強く、質問の途中で答えたり、友だちが答えているのを遮って答えたりすることがある。</p>	<p>①：おもちゃ作りをとおして、順序を表す言葉の役割を理解したうえで、説明書などの文章の共通点について理解している。</p> <p>②：おもちゃ作りをとおして、説明書などの文章の共通点について理解している。</p> <p>③：おもちゃ作りをとおして、説明書などの文章の共通点について知っている。</p>	<p>①：「読むこと」において、きつつきを作るために必要な材料や、作り方の手順や気をつけることなどを捉えほかのおもちゃ作りに生かすことができる。</p> <p>②：「読むこと」において、きつつきを作るために必要な材料や、作り方の手順や気をつけることなどを捉えている。</p> <p>③：「読むこと」において、きつつきを作るために必要な材料や、作り方の手順や気をつけることなどをヒントや支援をもとに考え、捉えている。</p>	<p>進んで、きつつきやおもちゃの作り方について順番を考えながら内容を捉え、学習課題に沿ってまとめようとしている。</p>
F	<p>第2学年の教科書の文章を使用して個別で読む学習を行っている。初めて読む文章では、逐次読みになることが多く、読めない字やわからない単語があると詰まってしまうことがある。</p>	<p>①：おもちゃ作りをとおして、説明書などの文章の共通点について理解している。</p> <p>②：おもちゃ作りをとおして、説明書などの文章の共通点について知っている。</p> <p>③：おもちゃ作りをとおして、順序を表す言葉や記号に触れている。</p>	<p>①：「読むこと」において、きつつきを作るために必要な材料や、作り方の手順や気をつける点などを捉えている。</p> <p>②：「読むこと」において、きつつきを作るために必要な材料や、作り方の手順や気をつける点などをヒントや支援をもとに考え、捉えている。</p> <p>③：きつつきの内容を読んで、作成するのに必要な材料や、作り方の手順や気をつける点などを教師と一緒に確認する。</p>	<p>進んで、きつつきやおもちゃの作り方について順番を考えながら内容を捉え、学習課題に沿ってまとめようとしている。</p>
G	<p>絵本の読み聞かせなどで読む学習を行っている。絵本に顔を向けて聞くことができている。気に入った絵などを指さしたり、じっと見つめたりする様子が見られる。</p>	<p>①：おもちゃ作りをとおして、順序を表す言葉や記号に触れ、確認している。</p> <p>②：おもちゃ作りをとおして、順序を表す言葉や記号に教師と一緒に触れている。(到達目標のレベル)</p> <p>③：おもちゃ作りを教師と一緒に確認しながら行う。</p>	<p>「読むこと」において、きつつきを作るために必要な材料や、作り方の手順や気をつける点などをヒントや支援をもとに考え、捉えている。</p> <p>②：きつつきの内容を読んで、作成するのに必要な材料や、作り方の手順や気をつける点などを教師と一緒に確認する。</p> <p>③：きつつきの内容を読んで、教師と一緒に作成をとおして確認する。</p>	<p>進んで、きつつきやおもちゃの作り方について教師やみんなと一緒に取り組み、学ぼうとしている。</p>

Point 児童の実態の欄は、本単元の「読むこと」に関して把握している実態を記載します。

また、本単元の評価基準を、観点別学習状況の評価の3観点で設定します（「理論編」の54ページを参照）。学級全体の「4 単元目標」と「5 単元の評価規準」をもとに、児童個々の実態と短期目標から予想される児童に到達してほしい姿として、3つのレベルを想定して具体的に設定しています。ここでは、到達が難しいレベルから①、②、③と表現し、②を到達目標のレベルとして設定しています。

児童の実態を踏まえて、個々に評価基準を立てます。BさんとCさんの評価基準が同じになっているように、個々の実態を踏まえた結果として、他児と同じ評価基準になることもあります。

7 教材についてのメモ

- ・「きつつき」（ひろがることば 小学校国語2下 教育出版）
- ・児童の実態に合わせて3種類のワークシートまたはタブレットを用意する
- ・きつつきの作成キットを準備：具体的内容物を確認する
- ・タブレット端末（学級に在籍している児童全員に支給）
- ・ロイロノート〔(株)LoiLo製〕（事前にダウンロードを完了しておく）

Point 小学校の国語教科書を教材として活用し、個々の児童の実態に応じて工夫しながら提供しています。小学校の国語教科書を活用することは、通常の学級の先生方と授業をベースにした意見交換や情報共有などをするすることにもつながります。

また、児童の実態に合わせたワークシートやタブレットを用意することで、主体的に学習する態度を支援しています。一人一台を所有していることから「ロイロノート」をダウンロードし活用することで、個々の実態に応じた学びを展開することができます。

8 単元計画

	学習内容・学習活動	重点目標の評価規準	評価方法
1	学習計画を確認しよう。		
2	どんな順番で作るのか確認し、文章の中から順番を表す言葉を見つける。	<ul style="list-style-type: none"> ● 順番を表す言葉を文章の中から見つける。(知・技) ● きつつきを作るために必要なものや、手順を理解している。(思・判・表) 	ワークシート
3	コイルばねを作るとき、コイルばね、きつつきをとりつける順番についてのポイントを読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ● きつつきを作る中で気をつける点を読み取り、答えることができる。(思・判・表) 	ワークシート

4	きつつきらしい動きとちょうちょの動きはどこが異なるのか考えよう。	●きつつきを作る中で気をつける点を読み取り、考えて答えることができる。(思・判・表)	ワークシート
5 本時	順番を表す言葉を使ってきつつきの作り方をまとめよう。		タブレット
6			
7	自分の作りたいおもちゃを決めて、作り方を調べよう。	●順番を表す言葉を使って、作り方をまとめる。(知・技)	タブレット
8	作り方を説明できるように、順番を表す言葉を使ってまとめよう。	●順番を表す言葉を使って、作り方をまとめる。(知・技)	ワークシート タブレット
9			
10	まとめたものを利用して説明しよう。	●順番を表す言葉を使って、作り方を説明する。(知・技)	タブレット
11	順番を表す言葉のとおり、実際作ってみよう。	●文章を読み、きつつきなどのおもちゃを作ることができる。(思・判・表)	ワークシート タブレット
12			
13			
14			



単元の初めに順番を表す言葉について文章から学習し、実際に全員で同じ物(きつつき)を作成していく体験的な活動をとおして作り方をまとめ、自分の作りたいおもちゃを考えながら作成し、作り方を他者に伝えていくための手順書を作成します。その流れを単元全体で構成することによって、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた計画とすることを考えています。

9 本単元と他教科等との関連

- ・2年は生活、3～6年は生活単元学習などでタブレットの使い方を学習できるようにする。



国語科で学んだことが、生活科や生活単元学習等のほかの学習と関連づけられています。次の活用場面や他教科等での学習と結びつけることで、学んだことが生かされていきます。

10 本時 (第5時)

(1) 本時の目標

- ・順番を表す言葉を使って、作り方の説明をする。(知・技)



「8 単元計画5時(本時)」に基づいて設定されています。1単位の授業で3観点すべての目標を設定することはせず、本授業では、「知識及び技能」に重点をおいて目標を立てています。

(2) 個々の児童の実態と本時の目標

	本時の目標／評価基準	指導の手立て	○評価規準 ◎評価方法
A	<p>①自分で選択した使いやすいワークシートを活用し、順番を表す言葉を使って、作り方を説明する方法や文章をつくる。</p> <p>②順番を表す言葉を使って、作り方を説明する方法や文章を考える。</p> <p>③ヒントカードを活用し、順番を表す言葉を使って、作り方を説明する方法や文章を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ワークシートを数種類作成し、使いやすいものを自分で選択できるようにする。 ●ヒントカードを準備し、順番を表す言葉を確認できるようにする。 ●間違えや失敗を少なくできるように、発問を検討して行うようにする。 ●課題の選択場面では自己決定できるようにし、学習意欲を維持できるようにする。 	<p>○順番を表す言葉を使って、発表資料を作る。</p> <p>◎タブレットで作成した文章</p>
B	<p>①教師などの声かけを受けずに、順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章をつくる。</p> <p>②順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章を考える。</p> <p>③教師などと一緒に、順番を表す言葉を使って、作り方を設営する文章を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ワークシートを数種類作成し、使いやすいものを自分で選択できるようにする。 ●本人の発言を受け止めながら、気持ちを汲んで言葉かけを行う。 ●集中を継続できるように、様子を見ながら適宜言葉かけをする。 ●ヒントカードを準備し、自由に使用できるようにする。 	<p>○順番を表す言葉を使って、発表資料を作る。</p> <p>◎タブレットで作成した文章</p>
C	<p>①自分で選択した使いやすいワークシートを活用し、順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章をつくる。</p> <p>②順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章を考える。</p> <p>③掲示物で確認し、順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ワークシートを数種類作成し、使いやすいものを自分で選択できるようにする。 ●ポイントや重要な言葉（特に順番を表す言葉）について確認できるような掲示物を作成し、自分で確認できるようにする。 	<p>○順番を表す言葉を使って、発表資料を作る。</p> <p>◎タブレットで作成した文章</p>
D	<p>①教師などの声かけを受けずに、順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章を考える。</p> <p>②順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章を教師と一緒に考える。</p> <p>③教師などと一緒に、順番を表す言葉を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ワークシートを数種類作成し、使いやすいものを自分で選択できるようにする。 ●教科書の中の大事な部分にはマーカーで印をつけるなどし、ポイントに注目できるようにする。 ●考え込む場面や、注意がそれる場面では言葉かけをする。 	<p>○順番を表す言葉を使って、教師と一緒に発表資料を作る。</p> <p>◎タブレットで作成した文章</p>

E	<p>①教師などの支援を受けずに、順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章をつくる。</p> <p>②順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章を考える。</p> <p>③辞書を活用しながら、順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章を考える。</p>	<p>●ワークシートを数種類作成し、使いやすいものを自分で選択できるようにする。</p> <p>●意味を知らない単語については辞書を使って調べたり、教師が解説したりして理解して読めるようにする。</p> <p>●答え方のルールを掲示し、目で見確認できるようにしておく。</p>	<p>○順番を表す言葉を使って、発表資料を作る。</p> <p>◎タブレットで作成した文章</p>
F	<p>①自分で選択したワークシートを活用し、順番を表す言葉を使って、作り方を説明する方法や文章をつくる。</p> <p>②順番を表す言葉を使って、作り方の説明する文章を考える。</p> <p>③教師などと一緒に、順番を表す言葉を使って、説明する文章を考える。</p>	<p>●ワークシートを数種類作成し、使いやすいものを自分で選択できるようにする。</p> <p>●読めない漢字には事前に読みがなを振り、自信をもって読めるように準備をする。</p>	<p>○順番を表す言葉を使って、発表資料を作る。</p> <p>◎タブレットで作成した文章</p>
G	<p>①教師などの声かけを受けずに、順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章を考える。</p> <p>②順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章を教師などと一緒に考える。</p> <p>③教師などと一緒に、順番を表す言葉を考える。</p>	<p>●ワークシートを数種類作成し、使いやすいものを自分で選択できるようにする。</p> <p>●ワークシートのサイズに合ったシールを準備し、確認しながら貼って説明を完成できるようにしていく。</p> <p>●自分で発表できるような教具を準備する。</p>	<p>○順番を表す言葉を使って、発表資料を作る。</p> <p>◎タブレットで作成した文章</p>



本時の目標／評価基準は、「5 単元の評価規準」「6 児童の実態と本単元の評価基準」に基づいて設定していきます。「10 (1) 本時の目標」に基づいて、児童に到達してほしい姿として、個々の児童の目標について、3つのレベルを想定して具体的に設定しています。ここでも、到達が難しいレベルから①、②、③と表現しています。

「児童の実態」を的確に捉えることで、「本時目標」を達成するための「指導の手立て」も明確に表現できています。

(3) 本時(10月〇日 3校時)の展開 ※時間の数字は「分間」(あくまでも目安の時間)

時刻 (時配)	学習活動	支援と留意点	評価方法 教材・教具
10 導入	<ul style="list-style-type: none"> ・日直があいさつをする。 ・前時までの学習内容を確認する。 ・今日の学習内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●姿勢の崩れている児童には、姿勢の確認掲示を示したり、言葉をかけたりする。 ●学習計画表や、作成してきた掲示物を使用して、単元全体の進行と本時の学習内容を確認する。 ●S IはGさんの支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢の確認掲示 ・学習計画表 ・学習掲示物
ワークシートを見ながら、順番どおりにきつつきを作ろう。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・順番を表す言葉の確認をする。 ●「まず」「はじめに」「つぎに」「さいごに」 ●ワークシートの記入内容を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●Aさんは失敗することへの不安が強い ため、様子を見ながらヒントを出したり、アドバイスを出したりする。 ●Bさんの様子を見ながら、指名する。 ●全員が発表できるように、指名する。 ●残り10分程度自由時間を設けることを伝える。 	
20 展開	<ul style="list-style-type: none"> ・きつつきの作り方を、タブレットのアプリを使用してまとめていく。 ●作り方の写真を撮りながら、説明する資料を作る。 ●タブレットの使用や、作り方がわからなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●活動する時間をタイマーで提示する。 ●必要に応じてグループ活動とし、互いに確認しながら作業するよう言葉かけする。 ●S IはGさんと一緒に活動する。 ●Gさん、Dさんのタブレットには事前に選択できるカードを作成しておく。 ●事前に写真の撮り方や、アプリの使用のしかたは指導しておく。 ●写真の撮り方に関しては指摘しない(目標以外のことについては授業にさしつかえなければ指導はしない)。 ●順番を表す言葉を使用していない場合には、掲示物などを使用して確認するように促す。 ●児童がタブレットの操作に苦勞している場合は、支援する。 ●活動を継続したい希望があった場合は、許可する。 ●発表の支援をする。 	タイマー タブレット 【知識・技能】 きつつきの 材料
5 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・どこまで達成したか、確認する。 ・日直と一緒にあいさつをする。 		
7~10 自由課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自由にタブレットを使用する 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習進度に応じて支援する。 	

Point 【導入】では、前時を振り返ることで、本時の展開につなげていきます。学習の始まりを意識できるようにするために、姿勢を正すことを促しています。また、単元全体の進捗状況を確認し、本時の学習意欲を高めています。

めあてが、児童にも理解しやすく表現され、本時で何を学習するのかが明確になっています。

Point 【展開】では、活動時間が意識できるようにタイマーを活用して提示しています。

児童の学習活動の取り組みに対して予測し、支援方法を考えておきます。その際、S1との役割分担も明確にされています。学習活動に必要なタブレット操作に関する技能は、本授業以外の時間も活用することで学習のつながりを意識できるとともに、タブレット活用の幅を広げることもつながります。

本時の目標以外のことに対して指摘はしないことで、本時の目標をより明確に意識し集中して取り組めるようにしています。

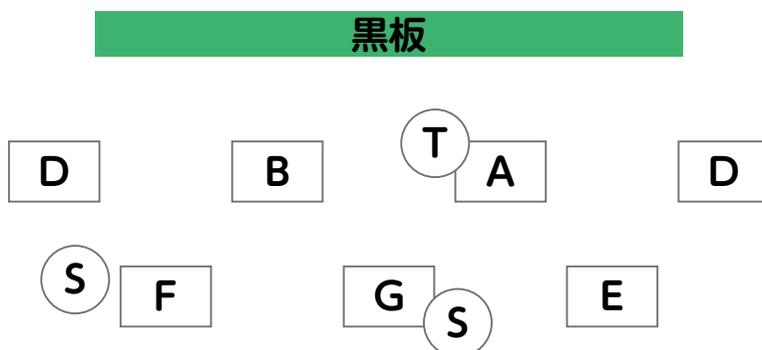
本時の目標である「順番を表す言葉」を使用することが獲得できるように、声かけだけでなく、掲示物などを使用するように促しています。

Point 自由課題は、児童自身が学習したい内容をタブレットのアプリで学習します。本時の学習活動を継続するか、自分の学習課題に取り組むかを選択することで、自主性を引き出すことにつながります。

Point 授業では、学ばせたいこと以外で児童が混乱したり、困ったりする場面を極力減らすように留意し、支援などを設定していくようにしています。

(4) 場面設定・教材など

○教室のレイアウト・授業者の配置



授業の様子

単元名

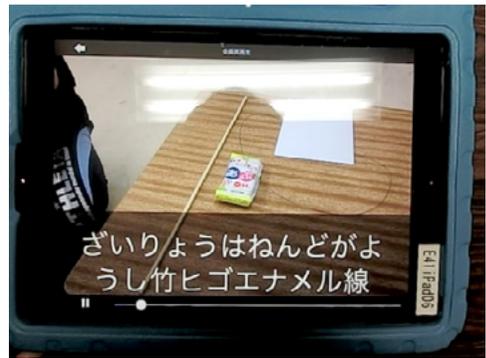
きつつき

①導入



前時までの学習内容を確認。

②展開

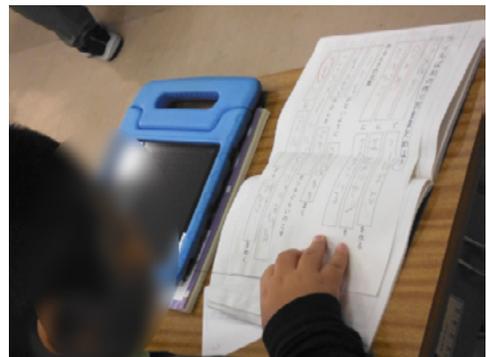


きつつきおもちゃを実際に作りながら、タブレットのアプリを使用して作り方を文章にしていきます。

③振り返り

きつつき学習計画	
学習内容	学習内容を確認しよう。
どんな順番で作るのか、きつつきをつくる材料を確認しよう。	
コイルはねのつくり方を確認しよう。	
コイルはねの取り付け方をまよめよう。	
きつつきの取り付け方を確認しよう。	
きつつきのつくり方をまよめよう。	
おもちゃの作り方を、順番を表す言葉を使ってまよめよう。	
まよめたものを使って説明しよう。	
おもちゃを作ってみよう。	

どこまで到達したか確認します。最後の10分程度は自由課題とし、継続して取り組むかどうか選択させ、自主性を引き出します。



タブレットを使って学習する様子。

指導後の振り返りシート

1 本時の学習評価

	本時の目標／評価基準 ◎評価方法	学習 評価	児童の様子 (すべて書かず、空欄でもよい)	次時の目標についてのメモ (変更の有無など)
A	<p>①自分で選択したワークシートを活用し、順番を表す言葉を使って、作り方を説明する方法や文章をつくる。</p> <p>②順番を表す言葉を使って、作り方を説明する方法や文章を考える。</p> <p>③ヒントカードを活用し、順番を表す言葉を使って、作り方を説明する方法や文章を考える。</p> <p>◎タブレットで作成した文章</p>	○	<p>●タブレットを使うことで、意欲が高まっていた。</p> <p>●絵文字や色を変えるなど自分なりの工夫をして、まとめることができていた。</p>	作業とまとめを分離してもよいものとする。
B	<p>①教師などの声かけを受けずに、順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章をつくる。</p> <p>②順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章を考える。</p> <p>③教師などと一緒に、順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章を考える。</p> <p>◎タブレットで作成した文章</p>	○	<p>●友だちの様子を見ながら取り組んでいた。</p> <p>●作業が入ることで授業に対するモチベーションが高まっていた。</p>	作業とまとめを分離してもよいものとする。
C	<p>①自分で選択したワークシートを活用し、順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章をつくる。</p> <p>②順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章を考える。</p> <p>③掲示物で確認し、順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章を考える。</p> <p>◎タブレットで作成した文章</p>	○	<p>●コイルばね作りに苦心していたが、あきらめずに取り組んでいた。</p>	作業とまとめを分離してもよいものとする。

D	<p>①教師などの声かけを受けずに、順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章をつくる。</p> <p>②順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章を教師と一緒に考える。</p> <p>③教師と一緒に、順番を表す言葉を考える。</p> <p>◎タブレットで作成した文章</p>	○	<p>●ワークシートを使った活動よりも、自発的に作成することができていた。</p> <p>⇒タブレットの使用が有効</p> <p>●作業が止まってしまう場面があった。適宜声かけを行う必要がある。</p>	作業とまとめを分離してもよいものとする。
E	<p>①教師などの声かけを受けずに、順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章をつくる。</p> <p>②順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章を考える。</p> <p>③辞書を活用しながら、順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章を考える。</p> <p>◎タブレットで作成した文章</p>	○	<p>●進んで学習していた。作業に集中しまとめの作業に取り組めなくなる場面があった。</p>	作業とまとめを分離してもよいものとする。
F	<p>①自分で選択した使いやすいワークシートを活用し、順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章をつくる。</p> <p>②順番を表す言葉を使って、作り方の説明する文章を考える。</p> <p>③教師などと一緒に、順番を表す言葉を使って、説明する文章を考える。</p> <p>◎タブレットで作成した文章</p>	○	<p>●手順がわかるまでに時間がかかる。</p> <p>●作業に集中してしまい、まとめる作業に取り組みにくかった（同時に2つの作業をすることが苦手であった）。</p>	作業とまとめを分離してもよいものとする。
G	<p>①教師などの声かけを受けずに、順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章をつくる。</p> <p>②順番を表す言葉を使って、作り方を説明する文章を教師などと一緒に考える。</p> <p>③教師などと一緒に、順番を表す言葉を考える。</p> <p>◎タブレットで作成した文章</p>	○	<p>●教師と一緒に活動できた。</p>	作業とまとめを分離してもよいものとする。

2 本時の評価

- ・作成の教示の場面でプリントを強調しすぎたため、教科書を参考にする児童が少なくなっていました。教科書の写真なども見るよう教示する必要があった。
⇒自分から気づいた児童がいた時点で、教示するべきであった。
- ・タブレットを使用すると個人の自由度が上がる分、取り組むべき活動に集中できなかったり、終了できなくなったりすることが多くなってしまうこともあり、使用したいものを活用しにくい実態もある（参観者より）。
⇒本授業では、事前に学習時間に自由にタブレットを使用する時間があることを提示したことで、その時間を心待ちにしながら授業に集中できた児童もいた。いつもタブレットを使用する中で、学習に使用するタブレットの利便性に児童も気がついており、学習に使うツールの1つとして機能していると感じる（書く、描くことは苦手だが、入力や写真撮影ならできるなど）。通常の教育活動においてもルールを守ることは徹底している。性格的にもルールを守ることをよしとしている児童が多いこともある。

3 単元の評価

(1) 児童に関する評価

- ・タブレットの使用方法を、事前にはほかの授業で学んでいたことで円滑に導入することができた。
- ・おもちゃを作るという目的が児童にあったので、いつもより集中して取り組むことができた。
- ・授業後に作文を書く課題でも、順番の言葉を使う姿が見られた。

(2) 単元の評価

- ・本時を展開したあとで作業に集中してしまい、肝心のまとめる作業が中途半端になってしまっていたので、次の時間は作業と撮影を優先させて実施した。その場面でも作業に集中して写真撮影を忘れがちになる児童がいたが、声かけを適宜入れることで撮影することができた。同時に予備セットを準備し、まとめの段階で写真が足りないと感じた児童にはその場面を提供することができた。
⇒作成活動が入る場合には、作業の事前確認と臨機応変な対応も必要になる。見通しがある一方で、そのとおりに行かない場面もあるので、混乱する児童が出ることも予想される。



本事例のまとめ（ポイントと意義など）

● 授業づくりの工夫

- ・ 本授業では、身につけさせたい資質・能力を明確にしたうえで題材を設定し、小学校国語科教科書をアレンジしたものやタブレットなどを活用してどのように学ぶのかを考え、単元を構成している。
- ・ 単元の初めに順番を表す言葉について文章から学習し、実際に全員で同じ物（きつつき）を作成していく体験的な活動をとおして作り方をまとめ、自分の作りたいおもちゃを作成しながら、作り方を他者に伝えていくための手順書を作成するという流れで単元を構成。
⇒「主体的・対話的で深い学び」を意識した単元構成によって、児童は学習意欲を高め、主体的に学習に取り組むことができていた。

● 子どもの学び

- ・ 学んだ知識及び技能を実際にタブレットや、児童一人ひとりの特性に応じたワークシートを活用して作業。
⇒表現の幅が広がり、主体的に学習に取り組むことにつながった。
- ・ 自分で作成した順番を表す言葉を使った手順書で、実際にきつつきなどを作成。
⇒人に伝えていくために必要な言葉について体験と結びつけながら学ぶことができた。

● 般化やほかの単元へのつながり

- ・ 本単元で使用したタブレットを日常的にほかの教科等でも活用し、主体的に学習に取り組むことが期待できる。



NISE授業づくりサポートシート

事例3 算数科「測定」

長さ～はかってすすめ！ たからじま～

本事例学級での教育課程の位置づけ

特別の教育課程編成（知的障害のある児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科）

1 指導体制

授業者 ○○市立○○○小学校 教諭 ○○○○（T1）

2 前時までの児童の実態や単元設定の理由など

（1）前時までの児童の実態

【全般的な児童の実態】

- ・本学級は、2年生1名と3年生1名の計2名が在籍している。
- ・同じ内容を繰り返し意識して学び、利用することで、学習が比較的身につけやすい。
- ・体験的な学習では両児童の関心が高くなり、集中して取り組むことができるため、学んだことが比較的長く記憶に残る傾向がある。
- ・Aさんは困ったことがあると、発言が減ったり自分からは動けなくなったりする場面が見られる。
- ・Bさんは知的障害を伴う自閉スペクトラム症のある児童で、気持ちの切り替えが難しかったり、集中が続かなかったりする場面が見られる。

【本単元に関わる児童の実態】

- ・両児童とも、ものさしを使って直線を引くことができる。
- ・前期では、前年度の復習（直接比較、間接比較、任意単位）をしたうえで、普遍単位（Aさん：cm、Bさん：km〔距離と道のり〕）の学習を行った。
- ・両児童は、直接比較の場面で、起点をそろえることを覚えていた。
- ・Aさんは、間接比較に関する思考がすぐにはできない場面が見られた。
- ・Bさんは、1mを大きく超える長さや曲面の長さの計測には巻き尺を使うと便利であるという意味理解と、実際の計測ができていた。



児童が学習に取り組みやすくなるという体験的な活動の特徴を生かし、実際の授業では活動的な内容を取り入れています。



児童の生活及び学習上の全般的な実態とともに、「長さ」の単元に関わる児童の実態把握をしています。

(2) 単元設定の理由と本単元において身につけさせたい力

- ・本単元では、前期の学習内容の発展的な位置づけとして、身の回りにあるものの長さについて、より細かなmmを取り上げ、さまざまな長さの単位に関する比較や測定、計算問題に取り組めるようにしたいと考えた。また、場面に応じた適切な道具を使用して長さを比較したり測定したりできるようにすることで、ほかの学習や生活場面にも生かせるようにしたいと考えた。
- ・本単元のまとめには、プリント学習よりも、既習事項を用いながら進めるゲームのほうが自主的に復習を行うことができると考えた。



mm単位でものの長さを測る際には、理科で扱った植物の種を取り上げることで、他教科の学習につなげ、児童の興味・関心を引き出しています。

また、単元の最後には、本単元で児童が学習してきた内容を復習でき、かつ自分で主体的に学習を進めていけるようなゲーム的な要素のある活動を設定しています。

(3) 年間指導計画における位置づけ

- ・本学級では、同じ内容を繰り返し学び、利用することで、学習内容が身につけやすくなるという児童の特徴から、下記の学習を前期と後期に分け、年間2回ずつ学習するように設定している。なお、前期では基礎的な内容を扱い、後期は全期の復習と発展的な内容として位置づけている。

「じかんとじこく」：4月/10月

「ながさ」：5月/11月

「水のかさ」：6月/12月

「かたち」：7月/1月

「重さ」：9月/2月

- ・週2時間、2名がそろそろ算数の時間を利用して、一緒に学ぶ場面を設定している。



繰り返しの学習により学んだことが身につけやすくなるという知的障害の特性を踏まえた年間指導計画になっています。

(4) 学習指導要領との対応

- ・本単元の目標・内容は、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の知的障害のある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の目標・内容のうち、小学部算数科の以下に関する内容と対応させている。

C 測定 ○3段階 目標

- ア 身の回りにある長さや体積などの量の単位と測定の意味について理解し、量の大きさについての感覚を豊にするとともに、測定することなどについての技能を身に付けるようにする。
- イ 身の回りにある量の単位に着目し、目的に応じて量を比較したり、量の大小及び相等関係を表現したりする力を養う。
- ウ 数量や図形の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。

C 測定 ○3段階 内容

- ア 身の回りのものの量の単位と測定に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けるよう指導する。

[知識及び技能]

- ア 長さ、広さ、かさなどの量を直接比べる方法について理解し、比較すること。

[思考力、判断力、表現力等]

- ア 身の回りのものの長さ、広さ及びかさについて、その単位に着目して大小を比較したり、表現したりすること。



「特別の教育課程」を編成しているので、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の知的障害のある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科から、小学部算数科の目標・内容に対応させています。

「特別の教育課程」については、「理論編」の48ページを参照してください。

(5) 指導全般における基本方針

- ・ 活動的な内容を多く取り入れることで、学習内容を身につけやすくし、主体的に授業に参加できるようにする。
- ・ Aさんは、困ったことがあると、発言が減ったり自分からは動けなくなったりする場面が見られるが、教師の支援が多すぎると、それに依存していっそう消極的になってしまうため、できる限り児童自らで支援を求められるように、必要に応じて声をかけるようにする。
- ・ Bさんは、気持ちの切り替えが難しかったり、集中が続かなかったりする様子が見られるため、活動の切り替え時に気持ちを整えるような声かけをしたり、身体を動かしながら活動できる内容を取り入れたりする。
- ・ 少人数だが、互いに関わりが生まれるような場面をできる限り設けるようにする。



Point 日々の児童の様子や学習内容を加味して、考慮しておくべき指導全般における基本方針〔授業の流れ・構成、特に児童（間）で配慮すべきこと〕を簡単におさえておきます。

3 単元名

長さ ～はかってすすめ！ たからじま～



Point 児童が学習に意欲的に取り組めるような表現にします。

4 単元目標

- 身の回りにある文房具や生活用品などを取り上げ、mmやcm、mといった長さの単位と測定の意味について理解し、測定することなどについて、定規や巻尺などを使用する技能を身につけるようにする。（知識及び技能 3段階 ア）
- 身の回りにある文房具や生活用品などを取り上げ、mmやcm、mといった長さの単位に着目し、目的に応じて長さを比較したり、長さの長短を表現したりする力を養う。（思考力、判断力、表現力等 3段階 イ）
- 長さや単位の違いを理解し、長さで学んだことのよさや楽しさを感じながら生活やほかの学習に活用しようとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等 C測定 3段階 ウ）



Point 学習指導要領の目標・内容に基づいて、育成を目指す資質・能力の3つの柱で設定します。また、学級の実態に応じた具体的な表現にしています。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ●身の周りにある物の長さについて、適切な方法で比較・測定することができている。 ●単位の関係を考えながら計算することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●適切な道具で長さを比較したり、表現したりすることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学んだ知識をもとにして、進んで身の周りにある物の長さを比較・測定しようとしている。



Point 「4 単元目標」に基づいて、観点別学習状況の評価の3観点で設定します。なお、観点別学習状況の評価の3観点については、「理論編」の54ページを参照してください。

6 児童の実態と本単元の評価基準

児童	個別の指導計画		本単元の評価基準		
	長期目標	短期目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	自分でできることに能動的に取り組み、適切な支援を受けながら生活できるようにする。	わからないときや支援が必要なときは、自分から周りに伝えることができるようにする。長さ、重さ、かさ、時間についての基礎的な知識・技能を身につける。	①：複数の場面で自分の力で長さを比較、測定、計算する。 ②：声かけがあれば、長さを比較・測定・計算することができる。 ③：教師と共に長さを比較、測定、計算することができる。	①：自らの判断で適切な道具を選び、長さを比較したり表現したりする。 ②：声かけがあれば、適切な道具を選び、長さを比較したり表現したりすることができる。 ③：教師と共に適切な道具を選び、長さを比較したり表現したりできる。	①：わからないときは、教師に尋ねながら学習活動に参加することができる。 ②：声かけがあれば、学習活動に参加することができる。 ③：教師の直接的な支援があれば、学習活動に参加することができる。
	児童の実態 ・前期の学習では、間接比較の方法を忘れていたのでやり直した。 ・数値表示のあるものさしであれば、cm単位の読み取りが可能。 ・計算は、繰り上がり（下がり）のない1桁同士の計算が可能。 ・学習意欲は高いが、つまずくと途端に委縮してしまう。				
B	自分の気持ちをうまくコントロールしながら、落ち着いて生活できるようにする。	周りの動きを意識しながら行動できるようにする。長さ、重さ、かさ、時間についての知識・技能を生活に生かす。	①：複数の場面で自分の力で長さを比較、測定、計算する。 ②：声かけがあれば、長さを比較・測定・計算することができる。 ③：教師と共に長さを比較、測定、計算することができる。	①：自らの判断で適切な道具を選び、長さを比較したり表現したりすることができる。 ②：声かけがあれば、適切な道具を選び、長さを比較したり表現したりすることができる。 ③：教師と共に適切な道具を選び、長さを比較したり表現したりすることができる。	①：最後まで、自分の力で学習活動に参加し続ける。 ②：声かけがあれば、学習活動に参加し続けることができる。 ③：教師の直接的な支援があれば、学習活動に参加し続けることができる。
	児童の実態 ・前期の学習では、cm単位やm単位での読み取りができていた。 ・mm単位の読み取りは理解できているが、細かい物を見ることがあまり得意でないため、読み間違いも見られる。 ・前期の学習では、計算に関しては、簡単な単位の換算問題にも取り組んでいた。 ・学習意欲は、扱う内容やその日の調子によっても大きく異なる。				

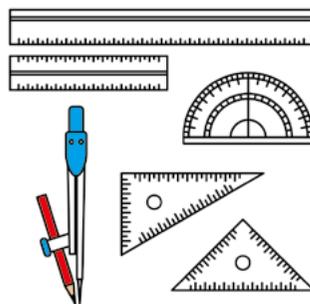
Point 児童の短期目標は、「長さ」の学習に関連した目標設定になっています。また、本単元の評価基準は、観点別学習状況の評価の3観点で設定します（「理論編」の54ページを参照）。学級全体の「4 単元目標」と「5 単元の評価規準」をもとに、児童個々の実態と短期目標から予想される児童に到達してほしい姿として、3つのレベルを想定して具体的に設定しています。ここでは、到達が難しいレベルから①、②、③と表しています。

7 教材についてのメモ

- ・長さの比較、実測問題、単位の換算や計算に関するワークシートを児童の実態に合わせて2種類を準備する。
- ・本単元では、より細かなmm単位の学習に際し、別の学習で使用した植物の種を実物投影機で見ることで児童の興味・関心を喚起していこうと考える（Aさんにとっては細かい部分に注視する際の支援、Bさんにとっては、関心と意欲の向上につなげたい）。
- ・本単元のまとめとなる本時では、ワークシートを使った復習に加え、ゲーム的な要素のある活動にすると児童が主体的に活動できると考えた。

Point mm単位の物の長さを測る際に、別の学習で使用したことのある植物の種を取り上げることで、他教科等での学習とのつながりを意識づけたり、児童の興味・関心を引き出したりすることを意図しています。

Point 単元の最後には、これまでの学習内容を復習でき、かつ自ら主体的に学習を進めていけるようなゲーム的な要素のある活動を取り入れる工夫がされています。



8 単元計画

	学習内容・学習活動	重点目標の評価規準	評価方法
1 時	<ul style="list-style-type: none"> おぼえているかな①（長さの測り方の復習） Aさん：30cmまで、Bさん：1mまで 問題を出し合う 	<ul style="list-style-type: none"> 指定された長さを測ることができる（知） 測るものに合わせて、適切なものさしを選ぶことができる（思） 	実測観察など
2 時	<ul style="list-style-type: none"> ミリメートルの世界を見てみよう mmの学習 mmの単位換算（1cm=10mmを理解する） 	<ul style="list-style-type: none"> 〇cm〇mmという長さの線を引いたり読み取ったりできる（知） 1cm=10mmの意味が理解できる（知） 	実測観察、プリントなど
3 時	<ul style="list-style-type: none"> おぼえているかな②（単位換算の復習） mm、cm、mの単位換算 問題を出し合う 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な長さの単位換算を考慮することができる（知） 	プリントなど
4 時	<ul style="list-style-type: none"> ながさのけいさんをしよう Aさん：mmとcmを使った計算 Bさん：mm、cm、mを使った計算 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な長さの計算問題を正しく解くことができる（知） 	プリントなど
5 時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> はかってすすめ！たからじま（長さに関するさまざまな問題を解く） これまで学習してきたことを使いながら、各児童がさまざまな問題に答えていく 	<ul style="list-style-type: none"> 測るものに合わせて適切な道具を選ぶことができる（思） 積極的に問題を解き、主体的に活動に参加することができる（主） 	実測観察、プリントなど



単元全体で「導入→展開→振り返り」を意識して作成します。

また、何を学ぶかが明確になっていて、どのように学ぶかという「主体的・対話的で深い学び」の視点も踏まえた計画になっています。

9 本単元と他教科等との関連

- いろいろな物の長さについて、ものさしや巻き尺を使って測定したり線を引いたりする活動を、図画工作科の制作活動につなげる。



算数科で学んだ内容が図画工作科の学習へ関連づけられています。ほかの教科等を含め、学習した内容が児童の具体的で実際的な生活の中で生かされることで、学習内容の定着や次の学習への意欲につながっていきます。

10 本時

(1) 本時の目標（「8 単元計画の5時（本時）」）

- ・積極的に問題を解き、主体的に活動に参加することができる。（学びに向かう力、人間性等）
- ・これまでに学んだことを活用し、適切な道具を選び長さを測ることができる。（主体的に学習に取り組む態度）



単元のまとめとなる本時では、主体的に学習に取り組む態度に重点をおいて目標を立てています。

(2) 単元に関する個々の児童の実態と本時の目標

	本時の目標	指導の手立て
A	①：主体的に活動に参加し、適切な道具を選んで長さを測ることができる。 ②：適切な道具を選んで長さを測ることができる。 ③：教師の直接的な支援があれば、適切な道具を選んで長さを測ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自信をもって取り組めるよう、称賛や励ましの声かけを多くする。 ・先回りした声かけが思考の依存を強めてしまうため、注意する。 ・困ったときは、本人から声をかけるよう促していく。 ・理解しやすくなるよう、できるだけ実物または代替の教材を用意する。
B	①：主体的に活動に参加し、適切な道具を選んで長さを測ることができる。 ②：適切な道具を選んで長さを測ることができる。 ③：教師の直接的な支援があれば、適切な道具を選んで長さを測ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の緩急をつけるため、タイミングを見て次の活動に参加しやすいよう声かけをする。 ・集中が切れると自分の世界に入り込んでしまうため、適宜、気分転換できる場面をつくる。 ・理解しやすくなるよう、できるだけ実物または代替の教材を用意する。



「指導の手立て」は「5 単元の評価規準」、「6 児童の実態と本単元の評価基準」に基づいて設定していきます。



「10（1）本時の目標」に基づいて、児童に到達してほしい姿として、個々の児童の目標について、3つのレベルを想定して具体的に設定しています。ここでも、到達が難しいレベルから①、②、③と表現しています。

「6 児童の実態と本単元の評価規準」にある児童の実態を的確に捉えることで、「本時の目標」を達成するための「指導の手立て」を身体的に考えられるようになります。

(3) 本時(〇〇月〇〇日5校時)の展開

※時間の数字は「分間」(あくまでも目安の時間)

時間	学習活動	支援と留意点	評価方法 【評価規準】								
10 導入	・日直のあいさつで授業を始める。	●背筋を伸ばし、顔を上げるよう声をかけ、姿勢を正したらあいさつをする。									
	・本時の学習内容を知る。 ・学習のめあてを読む。	●本時の学習の進め方がやや複雑なので、導入の時間をこれまでの授業より長く取るようにする。 ●「長さ」に関する問題を解いていき、最後まで正解すると、宝物を獲得できる活動であることを説明し、児童の学習意欲を引き出す。 ●学習のめあてを黒板に掲示する。									
	めあて ①じぶんでかんがえてうごこう。 ②こまったとき、てつだってほしいときは、じぶんからこえをかけよう。										
	・学習の進め方を知る。	●学習の進め方を説明する。 (※58ページ参照)									
30 展開	・「長さ」に関する問題を各自で解いていく。 ・スタート位置から学習を開始する。	●本単元で児童がこれまで解いてきたプリントを黒板に掲示しておき、児童が自分で復習しながら進めていけるようにする。 ●ワークシートは各児童に合わせて難易度の異なる問題を準備する ●学習が軌道に乗る第1～2問の間は、必要な指示を丁寧に伝えていく。 ●必要に応じて測定するものに応じた道具を選ぶよう必要に声をかける。 ●使い終わった道具は、箱の中に戻すよう声をかける。	＊主体的に活動に参加できているか。 ＊適切な道具を選ぶことができてきているか。								
	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>問題の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>問1：紙テープを用いた比較</td> </tr> <tr> <td>問2：方眼紙を用いた比較</td> </tr> <tr> <td>問3：定規で長さを読み取る</td> </tr> <tr> <td>問4：定規で長さを測る</td> </tr> <tr> <td>問5：単位の換算</td> </tr> <tr> <td>問6：巻尺や定規で長さを読み取る</td> </tr> <tr> <td>問7：mm、cm、mを用いた計算</td> </tr> </tbody> </table>	問題の内容	問1：紙テープを用いた比較	問2：方眼紙を用いた比較	問3：定規で長さを読み取る	問4：定規で長さを測る	問5：単位の換算	問6：巻尺や定規で長さを読み取る	問7：mm、cm、mを用いた計算	●各児童がすべて正解したところで、宝物を渡す。	
問題の内容											
問1：紙テープを用いた比較											
問2：方眼紙を用いた比較											
問3：定規で長さを読み取る											
問4：定規で長さを測る											
問5：単位の換算											
問6：巻尺や定規で長さを読み取る											
問7：mm、cm、mを用いた計算											
5	・振り返り	●各児童の頑張りを認め、評価する。 ●学習したことをほかの場面でどのように使えるか問いかける。									
	・あいさつ	●背筋を伸ばし、顔を上げるよう声をかけ、姿勢を正したらあいさつをする。									

Point 【導入】授業直前に、児童が気持ちを切り替えて授業に入れるように、授業開始前に予告をしたり、児童の様子を見ながらタイミングを計って声をかけたりします。

Point 【導入】長さに関する問題を解いていく学習を、「宝島までたどり着くための冒険」という設定にし、児童の学習意欲を引き出します。

Point 【導入】めあては、「長さ」に関する問題を解くために、必要な道具は何かを自分で選んだり、解き方がわからない問題があり教師の支援が必要なときに、自分から支援を求める声かけをしたりするような、本時の目標に応じた内容になっています。

Point 【導入】本単元当初から、本時の内容がゲーム的な要素を含んでいることを児童に伝えていたため、児童は本時を楽しみにしていました。ここでは、いよいよ本時が始まることを教師が児童と共に喜びながら、学習意欲を引き出します。

Point 【展開】ワークシートは、児童の実態に応じて個別に作成しています。児童の学習状況に応じてワークシートの難易度を変え、例えば、単位の換算では、Aさんは $20\text{mm} = () \text{cm}$ 、Bさんは $3\text{m}45\text{cm} = () \text{cm}$ のようにしています。

Point 【振り返り】最後まで問題を解き、児童が宝島までたどり着いたら、宝箱を児童に手渡します。宝箱には、宝物として三角定規やコンパスを入れておきます。それらは、児童がまだ使用したことがない道具であり、次年度の算数の学習で使うものなので、学習への動機づけにもなります。このようにして児童の学習意欲を引き出します。



授業の様子

単元名

長さ

～はかってすすめ！ たからじま～

導入



めあてと学習の進め方を確認します。

展開



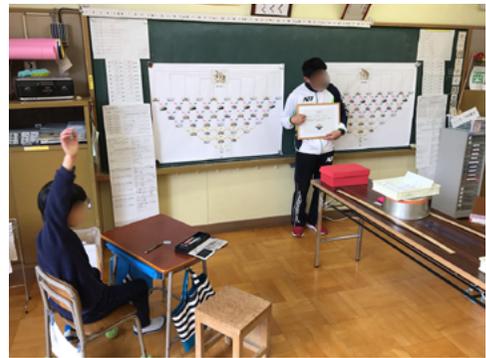
長さを測る道具を使って問題を解き、宝島を進んでいきます。

まとめ



全問正解でゴール！ 宝物をゲット！

振り返り



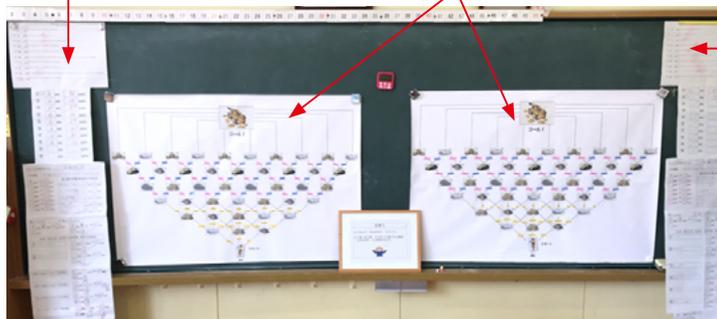
今日の学習を振り返ります。

(4) 場面設定・教材など

● 教室レイアウト

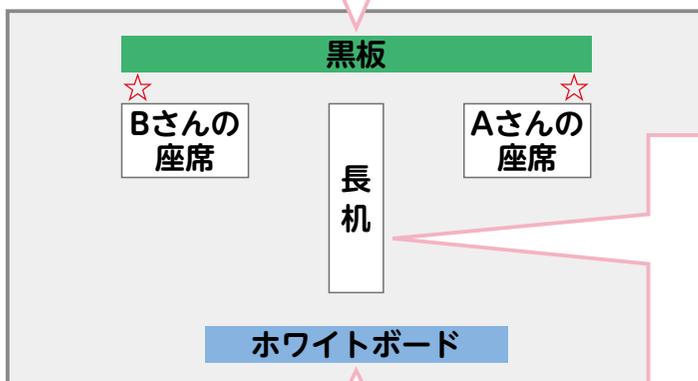
これまで単元中にBさんが
解いたワークシート

宝箱までの道のりを
示したイラスト



これまで単元中にAさん
が解いたワークシート

黒板の両端（各児童の前）には、これまで単元中に児童が解いてきたワークシートを掲示し、児童が必要に応じて自主的に学習を振り返りながら進められるようにする。



比較や測定の際に児童が
使用する道具

児童が問題を解く際に使用する道具を置いておく。



児童が取り組む問題や正誤を知るための
ワークシートが入っている封筒

ホワイトボードには封筒を貼り付け、封筒の中には問題が書かれたワークシートや問題の正誤が書かれたワークシートを入れておく。

Point 長さを測るための道具を選びに行ったり、問題の正誤を自分で確かめたりと、まるで児童が本当に宝島を冒険しているように、教室全体を使って活動的に学習を進められるような工夫をしています。

●宝島の進み方について

1：あらかじめ、黒板には下の〈図〉のように宝島の絵を掲示しておく。AとBの机には一人ずつ座り、スタートにそれぞれの児童が使う人物カード（すごろくのコマのようなもの）を置く。☆の位置には、児童がこれまで本単元で解いてきたプリントを掲示しておく。

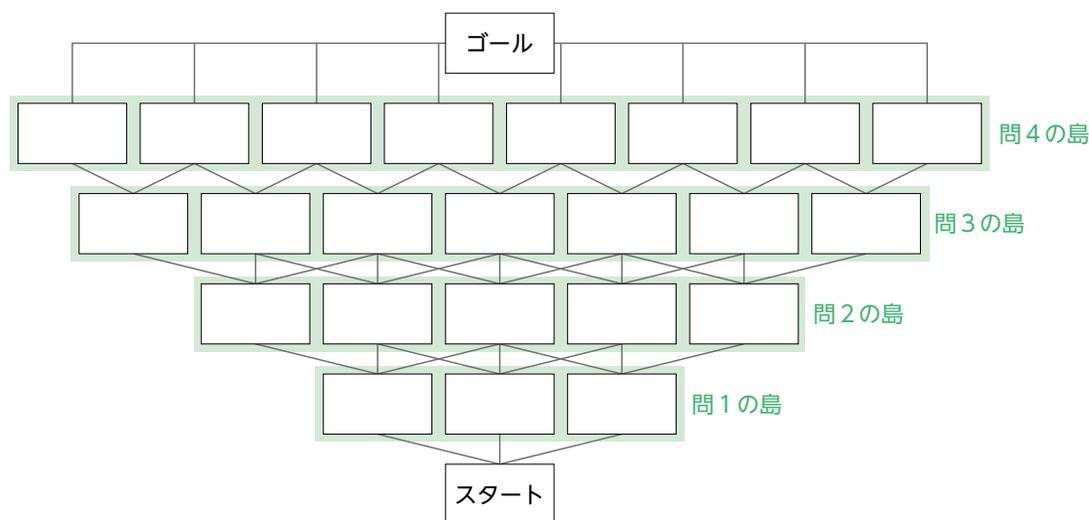
いくつかの問題用紙とその正答が記された用紙を児童それぞれに用意して別の封筒に入れ、ホワイトボードに貼る。中央の長机には、ものさし（15cm・30cm・50cm・1m・巻き尺）を入れたかごと、紙テープ、たこ糸、ビニールテープ、のり、はさみを入れたかごを、それぞれ2つずつ置く。

2：児童はそれぞれ、ホワイトボードに問題用紙を1枚ずつ取りに行き、各自で解く。必要に応じて長机の用具を使ってよいこととする。

3：児童はそれぞれ、問題を解いたら、ホワイトボードに正答を確認しに行く。

4：児童はそれぞれ、黒板の宝島の絵の答えに対応するマスに、自分の人物カードを動かす。

5：児童はそれぞれ、人物カードをゴールに進めるまで2～4を繰り返す。



〈図〉黒板に掲示している宝島の絵（例えば「問1の島」には、問1の回答の選択肢を3つ記してある）



● 児童の学習の進め方について（Bさんの例のみ紹介）

1



第1問目を解く児童

各児童、教師から手渡された第1問目の問題を解く（紙テープを用いた2つの長さの比較）。

2



Bさんの宝島の絵

コマを動かす児童の様子

第1問目の正解だと思う答えを、宝島の絵のスタート位置にある3つの選択肢から選ぶ。選んだ方向へコマを1マス進めたあと、島に書かれている番号を確認する。

（例：「Aが長い」を選んだら34の島）

Point 学習が軌道に乗るまでは、教師が学習の進め方を丁寧に伝えるようにします。

3

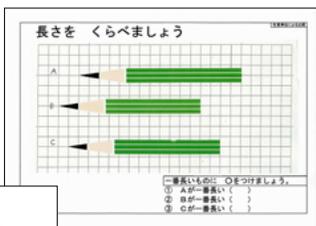


正誤を知るためのワークシート

進んだ島に書かれている番号と同じ番号の封筒を開け、中身を確認する。

4

①第2問目のワークシート



ざんねん！
もういちど
やりなおしてみよう

②不正解の場合のワークシート

正解の場合は、「よくできました」というメッセージと、次の問題が書かれている①のワークシートが入っているので、第2問目に進む（方眼紙のマス目を用いた3つの長さの比較）。

不正解の場合は②の紙が入っているので、もう一度第1問目を解き直し、正解だと思う答えを選び、進んだ先の番号の封筒を確認する。

Point 不正解の場合、もう一度問題に挑戦するよう必要に応じて励ましの声をかけます。教師の支援が必要だと思われる場合でも、様子を見ながら、児童が自ら支援を求められるように促す声かけをします。

5

よかったです！では、③の もんだいを やってみよう！

③ せん の ながさは どのくらい？

こたえ cm mm

第3問目のワークシート

第2問目、第3問目までは同様の流れで学習を進める（30cm定規を用いて線の長さを読み取る）。

6



長さを測る児童の様子

第4問目のワークシート

よかったです！では、④の もんだいを やってみよう！

④ 長さを はかりましょう。

ゆかに はってあるオレンジのテープをさがしてそこから82cmの所に テープを はろう。

できたら 先生に こえをかけてね！

第4問目以降は、正誤の確認を教師が行うため、問題を解いたら教師に声をかけ、正誤を判断してもらう（1cm定規を用いて長さを測る）。

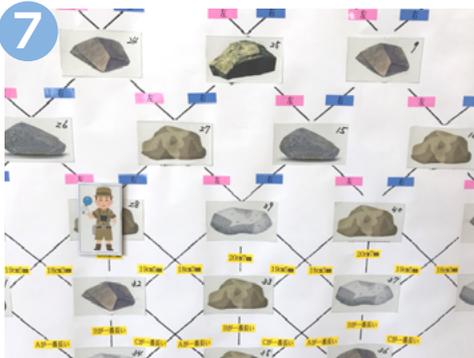


問題を解いたら、児童から教師に声をかけられるように促します。



床に貼ってある色つきのテープから、82cmの長さのところを測ります。この場面で、教師は1m定規を使うことが最も適切と考えていますが、児童は巻き尺を使って長さを測っています。

7



4問目以降の進み方

第4問目を正解すれば、左右どちらの島に進むかを自分で選ぶ。その後はこれまで同様、進んだ島に書かれている番号と、同じ番号の封筒の中に入っているワークシートの問題を解き、正誤を教師に判断してもらう（以下、最後まで同様の流れ）。



Aさんは日常生活や学習の場面で主体的に行動することに課題があるので、本時では「自分で選ぶ」場面を多く入れています。例えば、3問目までは、児童が自分で正しい答えを3つの選択肢から選んで進み、4問目以降は児童が自分で左右どちらかの道を選んで進む場面にあります。同じ選ぶ場面でも、自分が正しいと思う答えを自分で選ぶということと、自分が進みたいという気持ちをもって選ぶという違いがあります。実際、Aさんは初めは不安そうにコマを進めていましたが、徐々に自分で積極的に自信をもって選べるようになっていました。



集中力が続きにくいBさんにとっても、「自分で選ぶ」場面は効果的です。自分で答えを選んだり、自分で進みたい道を選んだりする活動によって、ゲーム的な要素を楽しめるだけでなく、「自分で選ぶ」という行為自体が動機づけになるという心理的な効果も狙える活動となっています。

8

⑤ 四角に 数字を 入れましょう。

$$\boxed{1} \text{ cm} = \boxed{\quad} \text{ mm}$$

$$\boxed{1} \text{ m} = \boxed{\quad} \text{ cm}$$

$$\boxed{3} \text{ m } \boxed{45} \text{ cm} = \boxed{\quad} \text{ cm}$$

$$\boxed{\quad} \text{ cm}$$

できたら 先生に こえをかけてね！

(mm、cm、mを用いた単位の換算)

第5問目のワークシート

9

教師に手伝ってもらう
児童の様子

⑥ 長さを はかりましょう。

まわりの長さを はかりましょう。



できたら 先生に こえをかけてね！

第6問目のワークシート

(巻き尺を用いて周囲の長さを読み取る)



巻き尺を使って桶の周囲を測る場面では、一人で長さを測れないことがわかると自ら教師に支援を求め、手伝ってもらった場面がありました。

10

⑦ 計算をしましょう。

$$\boxed{10} \text{ cm } \boxed{6} \text{ mm} - \boxed{7} \text{ cm} = \underline{\hspace{2cm}}$$

$$\boxed{5} \text{ m } \boxed{40} \text{ cm} + \boxed{1} \text{ m } \boxed{6} \text{ cm} = \underline{\hspace{2cm}}$$

$$\boxed{16} \text{ m } \boxed{80} \text{ cm} - \boxed{7} \text{ m } \boxed{20} \text{ cm} = \underline{\hspace{2cm}}$$

できたら 先生に こえをかけてね！

(mm、cm、mを用いた計算)

第7問目のワークシート

11

第7問目まで問題を解き、最後まで正解できたら、教師から宝物を受け取る。



最後まで正解し、宝物を受け取る児童

指導後の振り返りシート

1 本時の学習評価

	本時の目標／評価基準	学習評価	児童の様子 (すべて書かず、空欄でもよい)	次時の目標についてのメモ (変更の有無など)
A	<p>①主体的に活動に参加し、適切な道具を選んで長さを測ることができる。</p> <p>②適切な道具を選んで長さを測ることができる。</p> <p>③教師の直接的な支援があれば、適切な道具を選んで長さを測ることができる。</p>	A	終始笑顔で取り組み、主体的に活動に参加していた。また、測る物に応じて適切な道具を選び、長さを測ることができていた。	単位の異なる (cmとmm) 長さの計算で、単位に色づけをしなくてもよいように定着を図る。
B	<p>①主体的に活動に参加し、適切な道具を選んで長さを測ることができる。</p> <p>②適切な道具を選んで長さを測ることができる。</p> <p>③教師の直接的な支援があれば、適切な道具を選んで長さを測ることができる。</p>	B	1m定規を用いて長さを測ることが想定される場面では巻き尺を用いており、巻き尺を用いた読み取りにも混乱が見られた。教師が声をかけ、めあてを確認すると、教師に支援を求め、長さを測ることができていた。	巻き尺の使用場面および読み取りについて引き続き学習が必要である。



【児童の様子】には、学習評価の結果の根拠となるような、実際に児童ができたこと、教師が行った具体的な手立てなどを書きます。

また、評価規準に基づく評価とは別に、個人内評価を通じて見取ることができたことがあれば、ここに記入します。

2 本時の評価



【本時の内容】を当初予定していた内容から変更した場合は、その理由やよかった点、反省点なども書き込みます。

- ・学習の進め方がやや複雑だったので、授業のはじめに進め方をしっかりおさえるために、導入の時間を多めに取るように変更した。その結果、児童たちは、自主的に問題を解いていくという授業の大まかな流れを理解して学習を進めることができていた。
- ・問題を解く活動以外に時間を要する部分もあったため、予定よりも問題数を少なくした。

3 単元の評価



単元が終了した際に、単元を総括して書きます。反省点だけでなく、よかった点も書き、それらを次の学びにどう生かせるかを考えます。

(1) 児童に関する評価

○Aさんについて

- ・長さを測ったり長さを比べたりする活動に慣れ、解ける問題を増やすことができた。単位の異なる（cmとmm）長さの計算問題では、単位が区別できていない場面が何度か見られたため、区別できるよう単位に色づけをすると計算ができた。今後は、より長いものの測定や単位の換算に加え、単位の異なる長さの計算の定着を図る必要がある。
- ・計算が苦手で、長さの計算問題に対して不安があったようだが、第3時以降、家庭でも1桁同士のたし算に取り組むと、授業では指を使ってスムーズに計算できた。「10+0」という学校で再度説明した内容を、本時で生かすことができていた。

○Bさんについて

- ・長さの比較や単位の換算、計算問題では、正解することが多く、自信をもって学習を進めることができていた。測定では、基本的には、物の長さや形状に応じて適切な用具を用いて図ることができるが、1m定規で測れる大きさの物について、巻き尺を用いるなどの場面も見られた。また、第1時以降、巻き尺の目盛りの読み方を再度確認したが、本時でも読み取りに混乱が見られた（80cmを8mと読む）。巻き尺の適切な使用場面と目盛りの読み方については、引き続き学習が必要である。

(2) 授業に対する評価

- ・長さの学習を積み重ねることで、他教科の学習場面で、定規を使って長さを測ることができるようになった。本単元の学習により、児童たちは、これまで定規は「線を引くもの」という役割についての認識が強かったが、「長さを測るもの」という認識がされるようになったと感じた。
- ・単元当初から本時の大まかな内容について伝えていたこともあり、両児童ともに前日から本時を楽しみにしており、普段は「算数」と表記するホワイトボードの時間割に「だから

じま」と書いていた。本時では、導入で授業の流れを説明すると、児童たちは「おもしろそう！」と発言し、教室を動き回りながら長さを測ったり、問題を解いたりしている間は、終始笑顔で取り組んでいた。特にAさんは、当初想定していた以上に、積極的に問題を解いて学習に取り組む場面が見られたため、学習への動機づけや学習の進め方の工夫が大きく影響することを再認識した。

- ・授業の初めにめあてを確認したことで、児童たちはわからない問題があると、自分から「わかりません」「手伝ってください」と教師に伝えることができ、めあてをおおむね達成できた。

本事例のまとめ（ポイントと意義など）

● 授業づくりの工夫

- ・児童たちは、問題の解き方がわからなかったり、集中が続かなかったりすると、消極的になることが多いため、児童が意欲的に取り組めるよう、長さを測り、問題を解いていく学習を「宝物を目指す冒険」に見立て、教室全体を使った活動的な授業内容が計画された。
- ・できる限り自分で学習が進められるように、長さを測るための道具を準備し、それを冒険に必要なアイテムとして価値づけることで、児童の長さを測る意欲も引き出していた。
- ・児童が復習しながら行えるようにこれまで解いたワークシートも用意するという、教師が必要以上に支援しないように学習を進められる工夫も行われていた。
- ・本時では、児童のこれまでの学習の振り返りと定着を図る場面と、児童が主体的に学習を進め、自信を高めていくという場面がうまく取り入れられていたと考えられる。

● 子どもの学び

- ・本単元では、長さの測定や比較、単位の換算や計算問題をひとつおとり扱い、丁寧に学習が進められてきた。
- ・単元最後の本時は、これまでの学習のまとめとして位置づけ、児童が自分で問題を解いていく形式で学習が進めた。
⇒児童は必要に応じて黒板に掲示されているこれまでの学習プリントを参照したり、教師の支援を受けたりしながら、主体的に問題を解くことができた。

● 般化やほかの単元へのつながり

- ・長さを測定する力は、児童の生活場面で応用したり、理科や図工、体育（具体例を入れる）など、他教科の学習にも活用したりできる。